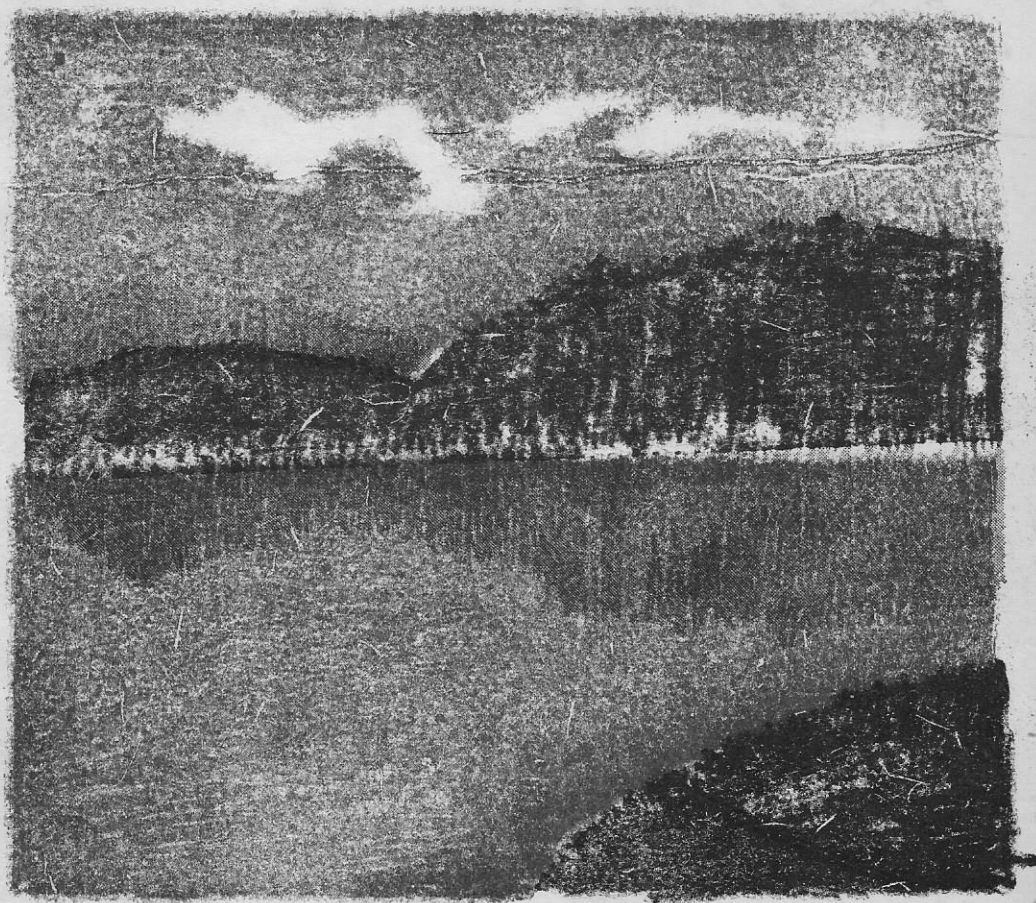


LEON- TODO

N-ro 18



1957

Aprilo

ENHAVORO

1. 世界連邦について	Iu. pacamanto.....	1
2. 私とエスペラント	イトーセイチ.....	3
3. Rômaziから Esperanto へ	アリマヨシハル.....	5
4. エスペラントノ年生の記	Y. O. 生.....	29
5. La parolo en deliro de Komencanto	J.M. Histario.....	35
6. R.O.による北海道エス界(Ⅶ)	坂下清一.....	37
7. 地方会梗り		41
8. 「エスペラント」誌の和文エス訳応募者		42
9. 収支報告		43
10. あとがき		43

去年の無線家といた。ほからだがに紹介し

世界連想だ!」新しい券の軌で言いつてはなかとやとくに広つたがと

世界にれが世界ただこれ世界連邦よつていするだろ

世界連から、核とである章の代り力なのた空気、工とおり人はなく、り即時禁軍備の

Pri mond fedelacio

世界連邦について

Iu. pacamanto.

1 去年の週刊読売に月9日号に「私たちは世界人です」という題でアマチュア
3 無線家とエスペ란ティストと世界連邦主義者のことが大きくとりあげられて
5 いた。ほんとにワシたちは世界人だ。といつてもワシの場合はノ年半ほど前
29 からだが。とにかくノ年半の間に勉強した世界連邦のことを全々知らない人
に紹介しよう。批判はその後にしてくれ。

35 世界連邦ということばを持ち出すとすぐ「世界征服だろう」とか「過激思
37 想だ!」とかいわれるようだ。これは世界連邦に限ったことでなく、一般に
41 新しい考えであればそう云われている。オモンロイことにこれを komunisto
42 の軌で言うとなれば「国連をアメリカ国務省の政略的武器にするものだ」と
43 いつてはねつけられる。世界連邦は今のところ頭のコチコチになった保守的
43 なひとや共産主義者のような人には通じにくく、人口の半分を占める女性、
とくに玄島あたりのお母さんに受け入れられている。さて、話がそれてしま
ったがその世界連邦だ。

世界にいま90の国がある。これらの国が全部加盟して連邦をつくれれば、そ
れが世界連邦である。いまの国連にはすでに80の国がくわわつているから
ただこれを改良すればいい、という mond federaristo が多くなっている。
世界連邦政府の運営は各国の政府代表と人口の割でえられた人民代表とに
よつていとなまれるから、大きくもない五大国なんてものは存在理由をなく
するだろう。

世界連邦になればおもしろいことがひとつある。すべて個人を単位にみる
から、核兵器製造にあたる人間は直接アイクであれブルであれ罰せられるこ
とである。決してアメリカとかソ連を相手どらない。戦争で人を殺せばクン
章の代りに殺人罪に向われる。世界連邦に国境はない。地球は全人類のスマ
カなのだから。それに、「人間の生活に欠くべからざる四大要素、土地、水、
空気、エネルギーは人類の共同財産である」と世界憲法草案で宣言している
とおりに人を基本にしたものだから、一国の利益のために公海が決されること
はなく、従つて核兵器実験などク俺の人の反対があつては当然憲法違反にな
り即時禁止命令が出る。

軍備の方はといえ、いらなくなるから全廃し、世界連邦警察軍をおくだ

けにする。いらなくなるというのは、国防は独立主権国家のそとに別の独立主権国家がある時にのみ必要であるが、世界連邦のほかに国がなくなるからいらぬというのである。今までの国境は単なる行政区画の国境となつて、パスポートなどめんどうなものは必要なく、北海道から本州に渡るぐらいの気持ちで世界を廻ることができるようになる筈である。

Esperantistoにとって何よりも関心の深いのは言語のことだろう。しかしこのことはそう心配はいらない。世界憲法草案には「ひとつの連邦語」を制定するとある。そのひとつがエスペラントになることはまあ疑いなかろう。現在エスペラント運動は盛んだが、講習をうけようとする人は少い。それはむりもないと思う。いまはまだエスペラントが必要だというほどのことがないのだから。世界連邦ができて人の往来が盛んになれば、心配しなくともEsperantoはひろまっていける。

ヨーロッパへ手紙をだしたいがフシなんかだせないでいる。ペテペラの紙2,3枚をヒューキでおくると、15円とられるからだ。フネでおくるのは、いまのように地球のうらがわでおきたことが即刻つたわる世の中では、じれたくてできない。こういう時、世界にあるありとあらゆるヒューキを管理する国際的な会社をひとつ作つて、そこがわたしたちに便利するようにとりはからつてくれるといいんだが、改良できるものはみな改良して旅客キと郵便を運ぶものだけにする。そうすれば、郵便料金はもつとやすくなるだろうし、人の往来も増す一方だから平和のためにもなるんだ。しかしこうするには戦争のない世の中でなくてはならないし、いまのように世界が無政府状態であつてはできっこない。どうしても世界連邦政府ができなくてはということだ。

戦争基地反対、原子爆弾反対、こういうものを連邦主義者は応急手当的平和運動と呼んでいる。これに対して、世界連邦のようにそれとえつてくれば、あど一切平和運動が不必要となるものを根本的平和運動といつてゐる。今この運動には世界中の色々なひとが参加しているようだ。2,3の有名な人をあげると、食糧問題の研究者ボイド・オア卿、哲学者バートランド・ラッセル、インド首相ネル、故アインシュタイン、シカゴ大学のハッチンス、作家スタインベック、湯川秀樹、キリスト教社会主義者賀川豊彦 などがいる。一般に人々は世界連邦なんて夢だと悟りきつたような顔をしてなかなか力を入れてくれず、結局有名人や金持に利用されやすくなり、運動も表面的なことに走りがちだが、人々の平和の願いは強く、運動の一端である都市世界化運動が盛んになつて来た。ほんの一刻をあげると、ドイツのオベルウイン市、デムマークのハムメル市、ベルギーのチャッセビエール市、インドのアーメダバ

ッド市、オーストラリアのゴスフォールド市、ソ連のノヴォロシスク、アメリカのポートランド、日本は広島市、綾部市、姫岡市など約 20 の市町村、北海道では山部村などがそうである。

Esperantistoで Mondfederalisto であるひとはいくらもいるらしい。そういう人の中には Akademio de Esperanto の会長をしているオランダの Isbrucker 女子や、同じく副会長をしている Edmond Privat がいる、彼等はいずれも世界連邦運動をしている La Universala Ligo の会長、副会長である。どうあれ、あと 100 年もしないうちにワシたちは世界連邦社会にする Esperanto を話すようになっていだろう。世界連邦は過激思想だというのは今のうちに云っていた方がいい、ワシたちの子孫は世界連邦社会に住む。そして日本語と Esperanto をペラペラやるにちがいない。ワシの話も少しアデクさくなってきたのでこれでやめよう。最後に世界連邦の歌を紹介する。

わが家はひろし五大州

力を合せて求めなば

わがはらからは 20 億

地上樂園愛ならず

去りては還る戦争の

世界連邦成る日こそ

暗き歴史は幕をとじ

文化の光かがやかん

持たざる国も持つ国も

共に分たんその日こそ

正義あまねく喜びを

希望は満つるわが地球

私とエスペラント

1956.11.27

イトー セイチ

私がエスペラントというゴトバを知ったのは中学生のころで、何となく興味を持ち出したのは高校時代である。

そのころ、S-yo 伊東三郎の「エスペラントの父・ザメンホフ」という本を読んで、ザメンホフとエスペラントの関係をあらまし知った。が、そのころ、私のいた町、北見にはフランス語の文法書すら 1 年に 1 冊か 2 冊しか入らないような始末だったので、なかなかエスペラントの文法その他を書いた本を見つけることはむづかしかった。

それから釧路の学芸大に進み、そこでローマ字の雑誌 (Rōmazi Sekai)

その他)やカナモジカイの雑誌やパンフレットを読みあさっているうちに、
次のような標語を、Rōmazi Sekai の雑誌から見つけた。

Kokugo wa Rōmazi de,
Kokusaigo wa Esperanto de,

ちょうど Nippon Rōmazi Kai が、東京の Japama Esperanto
Instituto 内にあったので、一そう Esperanto に親しみを持つようにな
った。それとアトサキして、北海道新聞で、雑誌 "La Revuo Orienta"
の存在を知って、8月号をとりよせた。

このようなことから、私は S-ro 大島義夫の簡単な文法書を取りよせ、文
法のアラマシ位はマスターした。

かくて2年間の釧路時代も終り、北見に渡り、ここで教員をすることにな
ったが、このころ、札幌の S-ro アリマを知って、Esperanto の道が、前
より親しいものとなった。

S-ro アリマは、カナモジ論者として、大変有名であり、私が知ったのも
このカナモジカイ、北海道支部とのおつき合いの途上で知ったものである。
彼の *letero* にはよく

ニッポンジン ドーシ ワ カナモジ デ
ガイコクジン ワ エスペラント デ

などというハンゴが押されてあつた。この標語は、さきのローマ字のセン
テン文といい対照であつた。とにかく、カナモジだけの仲間かと思つたら、
エスペラントまでこころえておられると知って私は大変うれしかつた。

教員をしてから半年になるが、私のエスペラントはなかなかほかどらない。
それというのも、Esperanto の仲間が身近にいないことにもよるが、やは
り先生取の忙がしさの故も否めない。

昨年(1956年) Hokkaido Esperanto Kongreso が札幌で行なわれ
た；この時はぜひ出席したいと思つてしたが、あいにく学芸会で行けなかつ
た。残念なことだつた。

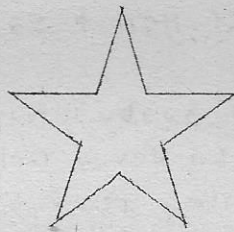
その時の記録が、あとで送られた写真やその時の Programo や雑誌
"Leonto do" N-ro 17 などから何とかうかがいがい知つた。

この中でいち番私の興味をそそつたのは、エスペラントの中に、早くから
芽ばえていたと思われる2つの対立的なもの(UEA と SAT)が、北
海道の Esperatistoj の中にも見られるのではないかと思われるフシである。

(40頁へ)

RÔMAZI 𛄁 ESPERANTO 𛄁

RÔMAZI 𛄁 𛄁𛄁 SYÔ-gakusei 𛄁
𛄁𛄁 Esperanto Dokusyûsyo



マ イ ガ キ

Esperantisto 𛄁 𛄁𛄁 zibun 𛄁 Kodomo 𛄁 Esperanto 𛄁
オヒヨ-𛄁 𛄁𛄁𛄁 マタ Doryoku 𛄁 𛄁𛄁 𛄁𛄁 ナイ デハ-𛄁.
𛄁𛄁𛄁 𛄁𛄁 ヒリ 𛄁𛄁. Hutari 𛄁 𛄁𛄁 Musuko 𛄁 Espe-
ranto 𛄁 オヒヨ-𛄁 オモッテ, マズ Tyônan 𛄁 Tyû-gakkô 𛄁
𛄁𛄁𛄁 𛄁𛄁 Kikai 𛄁 オヒヨ-𛄁𛄁 𛄁𛄁𛄁, Eigo 𛄁 Benkyô 𛄁
𛄁𛄁 𛄁𛄁𛄁𛄁 𛄁𛄁 𛄁𛄁𛄁𛄁. コノ ヨ-𛄁 Tyônan 𛄁 𛄁𛄁𛄁 𛄁
Sippai 𛄁 𛄁𛄁𛄁 𛄁𛄁, Syô-gakkô 6-nen 𛄁 Zinan 𛄁
オヒヨ-𛄁 オモッテ 𛄁𛄁 𛄁𛄁, Zinan 𛄁 Rômazi 𛄁 Kyôkasyo 𛄁
ヨズ 𛄁 Kurô 𛄁 𛄁𛄁𛄁. 4-nensei 𛄁 𛄁𛄁 𛄁𛄁 Rômazi 𛄁
サツバリ ヨズ 𛄁 𛄁𛄁.

Syô-gakkô 𛄁 Rômazi 𛄁 zyôsikiteki 𛄁 オヒヨ 𛄁𛄁 𛄁𛄁
Rômazi 𛄁 𛄁𛄁 Kokugo 𛄁 Kakitori 𛄁 𛄁𛄁. Sansû, Sya-
kaika 𛄁 Tôan 𛄁 𛄁𛄁𛄁 スル 𛄁𛄁 𛄁𛄁 ナイ 𛄁 seiototati 𛄁

Rômazî 𐀀 𐀁𐀂𐀃 𐀄𐀅𐀆𐀇𐀈𐀉𐀊𐀋𐀌𐀍𐀎𐀏𐀐𐀑𐀒𐀓𐀔𐀕𐀖𐀗𐀘𐀙𐀚𐀛𐀜𐀝𐀞𐀟𐀠𐀡𐀢𐀣𐀤𐀥𐀦𐀧𐀨𐀩𐀪𐀫𐀬𐀭𐀮𐀯𐀰𐀱𐀲𐀳𐀴𐀵𐀶𐀷𐀸𐀹𐀺𐀻𐀼𐀽𐀾𐀿𐁀𐁁𐁂𐁃𐁄𐁅𐁆𐁇𐁈𐁉𐁊𐁋𐁌𐁍𐁎𐁏𐁐𐁑𐁒𐁓𐁔𐁕𐁖𐁗𐁘𐁙𐁚𐁛𐁜𐁝𐁞𐁟𐁠𐁡𐁢𐁣𐁤𐁥𐁦𐁧𐁨𐁩𐁪𐁫𐁬𐁭𐁮𐁯𐁰𐁱𐁲𐁳𐁴𐁵𐁶𐁷𐁸𐁹𐁺𐁻𐁼𐁽𐁾𐁿𐂀𐂁𐂂𐂃𐂄𐂅𐂆𐂇𐂈𐂉𐂊𐂋𐂌𐂍𐂎𐂏𐂐𐂑𐂒𐂓𐂔𐂕𐂖𐂗𐂘𐂙𐂚𐂛𐂜𐂝𐂞𐂟𐂠𐂡𐂢𐂣𐂤𐂥𐂦𐂧𐂨𐂩𐂪𐂫𐂬𐂭𐂮𐂯𐂰𐂱𐂲𐂳𐂴𐂵𐂶𐂷𐂸𐂹𐂺𐂻𐂼𐂽𐂾𐂿𐃀𐃁𐃂𐃃𐃄𐃅𐃆𐃇𐃈𐃉𐃊𐃋𐃌𐃍𐃎𐃏𐃐𐃑𐃒𐃓𐃔𐃕𐃖𐃗𐃘𐃙𐃚𐃛𐃜𐃝𐃞𐃟𐃠𐃡𐃢𐃣𐃤𐃥𐃦𐃧𐃨𐃩𐃪𐃫𐃬𐃭𐃮𐃯𐃰𐃱𐃲𐃳𐃴𐃵𐃶𐃷𐃸𐃹𐃺𐃻𐃼𐃽𐃾𐃿𐄀𐄁𐄂𐄃𐄄𐄅𐄆𐄇𐄈𐄉𐄊𐄋𐄌𐄍𐄎𐄏𐄐𐄑𐄒𐄓𐄔𐄕𐄖𐄗𐄘𐄙𐄚𐄛𐄜𐄝𐄞𐄟𐄠𐄡𐄢𐄣𐄤𐄥𐄦𐄧𐄨𐄩𐄪𐄫𐄬𐄭𐄮𐄯𐄰𐄱𐄲𐄳𐄴𐄵𐄶𐄷𐄸𐄹𐄺𐄻𐄼𐄽𐄾𐄿𐅀𐅁𐅂𐅃𐅄𐅅𐅆𐅇𐅈𐅉𐅊𐅋𐅌𐅍𐅎𐅏𐅐𐅑𐅒𐅓𐅔𐅕𐅖𐅗𐅘𐅙𐅚𐅛𐅜𐅝𐅞𐅟𐅠𐅡𐅢𐅣𐅤𐅥𐅦𐅧𐅨𐅩𐅪𐅫𐅬𐅭𐅮𐅯𐅰𐅱𐅲𐅳𐅴𐅵𐅶𐅷𐅸𐅹𐅺𐅻𐅼𐅽𐅾𐅿𐆀𐆁𐆂𐆃𐆄𐆅𐆆𐆇𐆈𐆉𐆊𐆋𐆌𐆍𐆎𐆏𐆐𐆑𐆒𐆓𐆔𐆕𐆖𐆗𐆘𐆙𐆚𐆛𐆜𐆝𐆞𐆟𐆠𐆡𐆢𐆣𐆤𐆥𐆦𐆧𐆨𐆩𐆪𐆫𐆬𐆭𐆮𐆯𐆰𐆱𐆲𐆳𐆴𐆵𐆶𐆷𐆸𐆹𐆺𐆻𐆼𐆽𐆾𐆿𐇀𐇁𐇂𐇃𐇄𐇅𐇆𐇇𐇈𐇉𐇊𐇋𐇌𐇍𐇎𐇏𐇐𐇑𐇒𐇓𐇔𐇕𐇖𐇗𐇘𐇙𐇚𐇛𐇜𐇝𐇞𐇟𐇠𐇡𐇢𐇣𐇤𐇥𐇦𐇧𐇨𐇩𐇪𐇫𐇬𐇭𐇮𐇯𐇰𐇱𐇲𐇳𐇴𐇵𐇶𐇷𐇸𐇹𐇺𐇻𐇼𐇽𐇾𐇿𐈀𐈁𐈂𐈃𐈄𐈅𐈆𐈇𐈈𐈉𐈊𐈋𐈌𐈍𐈎𐈏𐈐𐈑𐈒𐈓𐈔𐈕𐈖𐈗𐈘𐈙𐈚𐈛𐈜𐈝𐈞𐈟𐈠𐈡𐈢𐈣𐈤𐈥𐈦𐈧𐈨𐈩𐈪𐈫𐈬𐈭𐈮𐈯𐈰𐈱𐈲𐈳𐈴𐈵𐈶𐈷𐈸𐈹𐈺𐈻𐈼𐈽𐈾𐈿𐉀𐉁𐉂𐉃𐉄𐉅𐉆𐉇𐉈𐉉𐉊𐉋𐉌𐉍𐉎𐉏𐉐𐉑𐉒𐉓𐉔𐉕𐉖𐉗𐉘𐉙𐉚𐉛𐉜𐉝𐉞𐉟𐉠𐉡𐉢𐉣𐉤𐉥𐉦𐉧𐉨𐉩𐉪𐉫𐉬𐉭𐉮𐉯𐉰𐉱𐉲𐉳𐉴𐉵𐉶𐉷𐉸𐉹𐉺𐉻𐉼𐉽𐉾𐉿𐊀𐊁𐊂𐊃𐊄𐊅𐊆𐊇𐊈𐊉𐊊𐊋𐊌𐊍𐊎𐊏𐊐𐊑𐊒𐊓𐊔𐊕𐊖𐊗𐊘𐊙𐊚𐊛𐊜𐊝𐊞𐊟𐊠𐊡𐊢𐊣𐊤𐊥𐊦𐊧𐊨𐊩𐊪𐊫𐊬𐊭𐊮𐊯𐊰𐊱𐊲𐊳𐊴𐊵𐊶𐊷𐊸𐊹𐊺𐊻𐊼𐊽𐊾𐊿𐋀𐋁𐋂𐋃𐋄𐋅𐋆𐋇𐋈𐋉𐋊𐋋𐋌𐋍𐋎𐋏𐋐𐋑𐋒𐋓𐋔𐋕𐋖𐋗𐋘𐋙𐋚𐋛𐋜𐋝𐋞𐋟𐋠𐋡𐋢𐋣𐋤𐋥𐋦𐋧𐋨𐋩𐋪𐋫𐋬𐋭𐋮𐋯𐋰𐋱𐋲𐋳𐋴𐋵𐋶𐋷𐋸𐋹𐋺𐋻𐋼𐋽𐋾𐋿𐌀𐌁𐌂𐌃𐌄𐌅𐌆𐌇𐌈𐌉𐌊𐌋𐌌𐌍𐌎𐌏𐌐𐌑𐌒𐌓𐌔𐌕𐌖𐌗𐌘𐌙𐌚𐌛𐌜𐌝𐌞𐌟𐌠𐌡𐌢𐌣𐌤𐌥𐌦𐌧𐌨𐌩𐌪𐌫𐌬𐌭𐌮𐌯𐌰𐌱𐌲𐌳𐌴𐌵𐌶𐌷𐌸𐌹𐌺𐌻𐌼𐌽𐌾𐌿𐍀𐍁𐍂𐍃𐍄𐍅𐍆𐍇𐍈𐍉𐍊𐍋𐍌𐍍𐍎𐍏𐍐𐍑𐍒𐍓𐍔𐍕𐍖𐍗𐍘𐍙𐍚𐍛𐍜𐍝𐍞𐍟𐍠𐍡𐍢𐍣𐍤𐍥𐍦𐍧𐍨𐍩𐍪𐍫𐍬𐍭𐍮𐍯𐍰𐍱𐍲𐍳𐍴𐍵𐍶𐍷𐍸𐍹𐍺𐍻𐍼𐍽𐍾𐍿𐎀𐎁𐎂𐎃𐎄𐎅𐎆𐎇𐎈𐎉𐎊𐎋𐎌𐎍𐎎𐎏𐎐𐎑𐎒𐎓𐎔𐎕𐎖𐎗𐎘𐎙𐎚𐎛𐎜𐎝𐎞𐎟𐎠𐎡𐎢𐎣𐎤𐎥𐎦𐎧𐎨𐎩𐎪𐎫𐎬𐎭𐎮𐎯𐎰𐎱𐎲𐎳𐎴𐎵𐎶𐎷𐎸𐎹𐎺𐎻𐎼𐎽𐎾𐎿𐏀𐏁𐏂𐏃𐏄𐏅𐏆𐏇𐏈𐏉𐏊𐏋𐏌𐏍𐏎𐏏𐏐𐏑𐏒𐏓𐏔𐏕𐏖𐏗𐏘𐏙𐏚𐏛𐏜𐏝𐏞𐏟𐏠𐏡𐏢𐏣𐏤𐏥𐏦𐏧𐏨𐏩𐏪𐏫𐏬𐏭𐏮𐏯𐏰𐏱𐏲𐏳𐏴𐏵𐏶𐏷𐏸𐏹𐏺𐏻𐏼𐏽𐏾𐏿𐐀𐐁𐐂𐐃𐐄𐐅𐐆𐐇𐐈𐐉𐐊𐐋𐐌𐐍𐐎𐐏𐐐𐐑𐐒𐐓𐐔𐐕𐐖𐐗𐐘𐐙𐐚𐐛𐐜𐐝𐐞𐐟𐐠𐐡𐐢𐐣𐐤𐐥𐐦𐐧𐐨𐐩𐐪𐐫𐐬𐐭𐐮𐐯𐐰𐐱𐐲𐐳𐐴𐐵𐐶𐐷𐐸𐐹𐐺𐐻𐐼𐐽𐐾𐐿𐑀𐑁𐑂𐑃𐑄𐑅𐑆𐑇𐑈𐑉𐑊𐑋𐑌𐑍𐑎𐑏𐑐𐑑𐑒𐑓𐑔𐑕𐑖𐑗𐑘𐑙𐑚𐑛𐑜𐑝𐑞𐑟𐑠𐑡𐑢𐑣𐑤𐑥𐑦𐑧𐑨𐑩𐑪𐑫𐑬𐑭𐑮𐑯𐑰𐑱𐑲𐑳𐑴𐑵𐑶𐑷𐑸𐑹𐑺𐑻𐑼𐑽𐑾𐑿𐒀𐒁𐒂𐒃𐒄𐒅𐒆𐒇𐒈𐒉𐒊𐒋𐒌𐒍𐒎𐒏𐒐𐒑𐒒𐒓𐒔𐒕𐒖𐒗𐒘𐒙𐒚𐒛𐒜𐒝𐒞𐒟𐒠𐒡𐒢𐒣𐒤𐒥𐒦𐒧𐒨𐒩𐒪𐒫𐒬𐒭𐒮𐒯𐒰𐒱𐒲𐒳𐒴𐒵𐒶𐒷𐒸𐒹𐒺𐒻𐒼𐒽𐒾𐒿𐓀𐓁𐓂𐓃𐓄𐓅𐓆𐓇𐓈𐓉𐓊𐓋𐓌𐓍𐓎𐓏𐓐𐓑𐓒𐓓𐓔𐓕𐓖𐓗𐓘𐓙𐓚𐓛𐓜𐓝𐓞𐓟𐓠𐓡𐓢𐓣𐓤𐓥𐓦𐓧𐓨𐓩𐓪𐓫𐓬𐓭𐓮𐓯𐓰𐓱𐓲𐓳𐓴𐓵𐓶𐓷𐓸𐓹𐓺𐓻𐓼𐓽𐓾𐓿𐔀𐔁𐔂𐔃𐔄𐔅𐔆𐔇𐔈𐔉𐔊𐔋𐔌𐔍𐔎𐔏𐔐𐔑𐔒𐔓𐔔𐔕𐔖𐔗𐔘𐔙𐔚𐔛𐔜𐔝𐔞𐔟𐔠𐔡𐔢𐔣𐔤𐔥𐔦𐔧𐔨𐔩𐔪𐔫𐔬𐔭𐔮𐔯𐔰𐔱𐔲𐔳𐔴𐔵𐔶𐔷𐔸𐔹𐔺𐔻𐔼𐔽𐔾𐔿𐕀𐕁𐕂𐕃𐕄𐕅𐕆𐕇𐕈𐕉𐕊𐕋𐕌𐕍𐕎𐕏𐕐𐕑𐕒𐕓𐕔𐕕𐕖𐕗𐕘𐕙𐕚𐕛𐕜𐕝𐕞𐕟𐕠𐕡𐕢𐕣𐕤𐕥𐕦𐕧𐕨𐕩𐕪𐕫𐕬𐕭𐕮𐕯𐕰𐕱𐕲𐕳𐕴𐕵𐕶𐕷𐕸𐕹𐕺𐕻𐕼𐕽𐕾𐕿𐖀𐖁𐖂𐖃𐖄𐖅𐖆𐖇𐖈𐖉𐖊𐖋𐖌𐖍𐖎𐖏𐖐𐖑𐖒𐖓𐖔𐖕𐖖𐖗𐖘𐖙𐖚𐖛𐖜𐖝𐖞𐖟𐖠𐖡𐖢𐖣𐖤𐖥𐖦𐖧𐖨𐖩𐖪𐖫𐖬𐖭𐖮𐖯𐖰𐖱𐖲𐖳𐖴𐖵𐖶𐖷𐖸𐖹𐖺𐖻𐖼𐖽𐖾𐖿𐗀𐗁𐗂𐗃𐗄𐗅𐗆𐗇𐗈𐗉𐗊𐗋𐗌𐗍𐗎𐗏𐗐𐗑𐗒𐗓𐗔𐗕𐗖𐗗𐗘𐗙𐗚𐗛𐗜𐗝𐗞𐗟𐗠𐗡𐗢𐗣𐗤𐗥𐗦𐗧𐗨𐗩𐗪𐗫𐗬𐗭𐗮𐗯𐗰𐗱𐗲𐗳𐗴𐗵𐗶𐗷𐗸𐗹𐗺𐗻𐗼𐗽𐗾𐗿𐘀𐘁𐘂𐘃𐘄𐘅𐘆𐘇𐘈𐘉𐘊𐘋𐘌𐘍𐘎𐘏𐘐𐘑𐘒𐘓𐘔𐘕𐘖𐘗𐘘𐘙𐘚𐘛𐘜𐘝𐘞𐘟𐘠𐘡𐘢𐘣𐘤𐘥𐘦𐘧𐘨𐘩𐘪𐘫𐘬𐘭𐘮𐘯𐘰𐘱𐘲𐘳𐘴𐘵𐘶𐘷𐘸𐘹𐘺𐘻𐘼𐘽𐘾𐘿𐙀𐙁𐙂𐙃𐙄𐙅𐙆𐙇𐙈𐙉𐙊𐙋𐙌𐙍𐙎𐙏𐙐𐙑𐙒𐙓𐙔𐙕𐙖𐙗𐙘𐙙𐙚𐙛𐙜𐙝𐙞𐙟𐙠𐙡𐙢𐙣𐙤𐙥𐙦𐙧𐙨𐙩𐙪𐙫𐙬𐙭𐙮𐙯𐙰𐙱𐙲𐙳𐙴𐙵𐙶𐙷𐙸𐙹𐙺𐙻𐙼𐙽𐙾𐙿𐚀𐚁𐚂𐚃𐚄𐚅𐚆𐚇𐚈𐚉𐚊𐚋𐚌𐚍𐚎𐚏𐚐𐚑𐚒𐚓𐚔𐚕𐚖𐚗𐚘𐚙𐚚𐚛𐚜𐚝𐚞𐚟𐚠𐚡𐚢𐚣𐚤𐚥𐚦𐚧𐚨𐚩𐚪𐚫𐚬𐚭𐚮𐚯𐚰𐚱𐚲𐚳𐚴𐚵𐚶𐚷𐚸𐚹𐚺𐚻𐚼𐚽𐚾𐚿𐛀𐛁𐛂𐛃𐛄𐛅𐛆𐛇𐛈𐛉𐛊𐛋𐛌𐛍𐛎𐛏𐛐𐛑𐛒𐛓𐛔𐛕𐛖𐛗𐛘𐛙𐛚𐛛𐛜𐛝𐛞𐛟𐛠𐛡𐛢𐛣𐛤𐛥𐛦𐛧𐛨𐛩𐛪𐛫𐛬𐛭𐛮𐛯𐛰𐛱𐛲𐛳𐛴𐛵𐛶𐛷𐛸𐛹𐛺𐛻𐛼𐛽𐛾𐛿𐜀𐜁𐜂𐜃𐜄𐜅𐜆𐜇𐜈𐜉𐜊𐜋𐜌𐜍𐜎𐜏𐜐𐜑𐜒𐜓𐜔𐜕𐜖𐜗𐜘𐜙𐜚𐜛𐜜𐜝𐜞𐜟𐜠𐜡𐜢𐜣𐜤𐜥𐜦𐜧𐜨𐜩𐜪𐜫𐜬𐜭𐜮𐜯𐜰𐜱𐜲𐜳𐜴𐜵𐜶𐜷𐜸𐜹𐜺𐜻𐜼𐜽𐜾𐜿𐝀𐝁𐝂𐝃𐝄𐝅𐝆𐝇𐝈𐝉𐝊𐝋𐝌𐝍𐝎𐝏𐝐𐝑𐝒𐝓𐝔𐝕𐝖𐝗𐝘𐝙𐝚𐝛𐝜𐝝𐝞𐝟𐝠𐝡𐝢𐝣𐝤𐝥𐝦𐝧𐝨𐝩𐝪𐝫𐝬𐝭𐝮𐝯𐝰𐝱𐝲𐝳𐝴𐝵𐝶𐝷𐝸𐝹𐝺𐝻𐝼𐝽𐝾𐝿𐞀𐞁𐞂𐞃𐞄𐞅𐞆𐞇𐞈𐞉𐞊𐞋𐞌𐞍𐞎𐞏𐞐𐞑𐞒𐞓𐞔𐞕𐞖𐞗𐞘𐞙𐞚𐞛𐞜𐞝𐞞𐞟𐞠𐞡𐞢𐞣𐞤𐞥𐞦𐞧𐞨𐞩𐞪𐞫𐞬𐞭𐞮𐞯𐞰𐞱𐞲𐞳𐞴𐞵𐞶𐞷𐞸𐞹𐞺𐞻𐞼𐞽𐞾𐞿𐟀𐟁𐟂𐟃𐟄𐟅𐟆𐟇𐟈𐟉𐟊𐟋𐟌𐟍𐟎𐟏𐟐𐟑𐟒𐟓𐟔𐟕𐟖𐟗𐟘𐟙𐟚𐟛𐟜𐟝𐟞𐟟𐟠𐟡𐟢𐟣𐟤𐟥𐟦𐟧𐟨𐟩𐟪𐟫𐟬𐟭𐟮𐟯𐟰𐟱𐟲𐟳𐟴𐟵𐟶𐟷𐟸𐟹𐟺𐟻𐟼𐟽𐟾𐟿𐠀𐠁𐠂𐠃𐠄𐠅𐠆𐠇𐠈𐠉𐠊𐠋𐠌𐠍𐠎𐠏𐠐𐠑𐠒𐠓𐠔𐠕𐠖𐠗𐠘𐠙𐠚𐠛𐠜𐠝𐠞𐠟𐠠𐠡𐠢𐠣𐠤𐠥𐠦𐠧𐠨𐠩𐠪𐠫𐠬𐠭𐠮𐠯𐠰𐠱𐠲𐠳𐠴𐠵𐠶𐠷𐠸𐠹𐠺𐠻𐠼𐠽𐠾𐠿𐡀𐡁𐡂𐡃𐡄𐡅𐡆𐡇𐡈𐡉𐡊𐡋𐡌𐡍𐡎𐡏𐡐𐡑𐡒𐡓𐡔𐡕𐡖𐡗𐡘𐡙𐡚𐡛𐡜𐡝𐡞𐡟𐡠𐡡𐡢𐡣𐡤𐡥𐡦𐡧𐡨𐡩𐡪𐡫𐡬𐡭𐡮𐡯𐡰𐡱𐡲𐡳𐡴𐡵𐡶𐡷𐡸𐡹𐡺𐡻𐡼𐡽𐡾𐡿𐢀𐢁𐢂𐢃𐢄𐢅𐢆𐢇𐢈𐢉𐢊𐢋𐢌𐢍𐢎𐢏𐢐𐢑𐢒𐢓𐢔𐢕𐢖𐢗𐢘𐢙𐢚𐢛𐢜𐢝𐢞𐢟𐢠𐢡𐢢𐢣𐢤𐢥𐢦𐢧𐢨𐢩𐢪𐢫𐢬𐢭𐢮𐢯𐢰𐢱𐢲𐢳𐢴𐢵𐢶𐢷𐢸𐢹𐢺𐢻𐢼𐢽𐢾𐢿𐣀𐣁𐣂𐣃𐣄𐣅𐣆𐣇𐣈𐣉𐣊𐣋𐣌𐣍𐣎𐣏𐣐𐣑𐣒𐣓𐣔𐣕𐣖𐣗𐣘𐣙𐣚𐣛𐣜𐣝𐣞𐣟𐣠𐣡𐣢𐣣𐣤𐣥𐣦𐣧𐣨𐣩𐣪𐣫𐣬𐣭𐣮𐣯𐣰𐣱𐣲𐣳𐣴𐣵𐣶𐣷𐣸𐣹𐣺𐣻𐣼𐣽𐣾𐣿𐤀𐤁𐤂𐤃𐤄𐤅𐤆𐤇𐤈𐤉𐤊𐤋𐤌𐤍𐤎𐤏𐤐𐤑𐤒𐤓𐤔𐤕𐤖𐤗𐤘𐤙𐤚𐤛𐤜𐤝𐤞𐤟𐤠𐤡𐤢𐤣𐤤𐤥𐤦𐤧𐤨𐤩𐤪𐤫𐤬𐤭𐤮𐤯𐤰𐤱𐤲𐤳𐤴𐤵𐤶𐤷𐤸𐤹𐤺𐤻𐤼𐤽𐤾𐤿𐥀𐥁𐥂𐥃𐥄𐥅𐥆𐥇𐥈𐥉𐥊𐥋𐥌𐥍𐥎𐥏𐥐𐥑𐥒𐥓𐥔𐥕𐥖𐥗𐥘𐥙𐥚𐥛𐥜𐥝𐥞𐥟𐥠𐥡𐥢𐥣𐥤𐥥𐥦𐥧𐥨𐥩𐥪𐥫𐥬𐥭𐥮𐥯𐥰𐥱𐥲𐥳𐥴𐥵𐥶𐥷𐥸𐥹𐥺𐥻𐥼𐥽𐥾𐥿𐦀𐦁𐦂𐦃𐦄𐦅𐦆𐦇𐦈𐦉𐦊𐦋𐦌𐦍𐦎𐦏𐦐𐦑𐦒𐦓𐦔𐦕𐦖𐦗𐦘𐦙𐦚𐦛𐦜𐦝𐦞𐦟𐦠𐦡𐦢𐦣𐦤𐦥𐦦𐦧𐦨𐦩𐦪𐦫𐦬𐦭𐦮𐦯𐦰𐦱𐦲𐦳𐦴𐦵𐦶𐦷𐦸𐦹𐦺𐦻𐦼𐦽𐦾𐦿𐧀𐧁𐧂𐧃𐧄𐧅𐧆𐧇𐧈𐧉𐧊𐧋𐧌𐧍𐧎𐧏𐧐𐧑𐧒𐧓𐧔𐧕𐧖𐧗𐧘𐧙𐧚𐧛𐧜𐧝𐧞𐧟𐧠𐧡𐧢𐧣𐧤𐧥𐧦𐧧𐧨𐧩𐧪𐧫𐧬𐧭𐧮𐧯𐧰𐧱𐧲𐧳𐧴𐧵𐧶𐧷𐧸𐧹𐧺𐧻𐧼𐧽𐧾𐧿𐨀𐨁𐨂𐨃𐨄𐨅𐨆𐨇𐨈𐨉𐨊𐨋𐨌𐨍𐨎𐨏𐨐𐨑𐨒𐨓𐨔𐨕𐨖𐨗𐨘𐨙𐨚𐨛𐨜𐨝𐨞𐨟𐨠𐨡𐨢𐨣𐨤𐨥𐨦𐨧𐨨𐨩𐨪𐨫𐨬𐨭𐨮𐨯𐨰𐨱𐨲𐨳𐨴𐨵𐨶𐨷𐨹𐨺𐨸𐨻𐨼𐨽𐨾𐨿𐩀𐩁𐩂𐩃𐩄𐩅𐩆𐩇𐩈𐩉𐩊𐩋𐩌𐩍𐩎𐩏𐩐𐩑𐩒𐩓𐩔𐩕𐩖𐩗𐩘𐩙𐩚𐩛𐩜𐩝𐩞𐩟𐩠𐩡𐩢𐩣𐩤𐩥𐩦𐩧𐩨𐩩𐩪𐩫𐩬𐩭𐩮𐩯𐩰𐩱𐩲𐩳𐩴𐩵𐩶𐩷𐩸𐩹𐩺𐩻𐩼𐩽𐩾𐩿𐪀𐪁𐪂𐪃𐪄𐪅𐪆𐪇𐪈𐪉𐪊𐪋𐪌𐪍𐪎𐪏𐪐𐪑𐪒𐪓𐪔𐪕𐪖𐪗𐪘𐪙𐪚𐪛𐪜𐪝𐪞𐪟𐪠𐪡𐪢𐪣𐪤𐪥𐪦𐪧𐪨𐪩𐪪𐪫𐪬𐪭𐪮𐪯𐪰𐪱𐪲𐪳𐪴𐪵𐪶𐪷𐪸𐪹𐪺𐪻𐪼𐪽𐪾𐪿𐫀𐫁𐫂𐫃𐫄𐫅𐫆𐫇𐫈𐫉𐫊𐫋𐫌𐫍𐫎𐫏𐫐𐫑𐫒𐫓𐫔𐫕𐫖𐫗𐫘𐫙𐫚𐫛𐫜𐫝𐫞𐫟𐫠𐫡𐫢𐫣𐫤𐫦𐫥𐫧𐫨𐫩𐫪𐫫𐫬𐫭𐫮𐫯𐫰𐫱𐫲𐫳𐫴𐫵𐫶𐫷𐫸𐫹𐫺𐫻𐫼𐫽𐫾𐫿𐬀𐬁𐬂𐬃𐬄𐬅𐬆𐬇𐬈𐬉𐬊𐬋𐬌𐬍𐬎𐬏𐬐𐬑𐬒𐬓𐬔𐬕𐬖𐬗𐬘𐬙𐬚𐬛𐬜𐬝𐬞𐬟𐬠𐬡𐬢𐬣𐬤𐬥𐬦𐬧𐬨𐬩𐬪𐬫𐬬𐬭𐬮𐬯𐬰𐬱𐬲𐬳𐬴𐬵𐬶𐬷𐬸𐬹𐬺𐬻𐬼𐬽𐬾𐬿𐭀𐭁𐭂𐭃𐭄𐭅𐭆𐭇𐭈𐭉𐭊𐭋𐭌𐭍𐭎𐭏𐭐𐭑𐭒𐭓𐭔𐭕𐭖𐭗𐭘𐭙𐭚𐭛𐭜𐭝𐭞𐭟𐭠𐭡𐭢𐭣𐭤𐭥𐭦𐭧𐭨𐭩𐭪𐭫𐭬𐭭𐭮𐭯𐭰𐭱𐭲𐭳𐭴𐭵𐭶𐭷𐭸𐭹𐭺𐭻𐭼𐭽𐭾𐭿𐮀𐮁𐮂𐮃𐮄𐮅𐮆𐮇𐮈𐮉𐮊𐮋𐮌𐮍𐮎𐮏𐮐𐮑𐮒𐮓𐮔𐮕𐮖𐮗𐮘𐮙𐮚𐮛𐮜𐮝𐮞𐮟𐮠𐮡𐮢𐮣𐮤𐮥𐮦𐮧𐮨𐮩𐮪𐮫𐮬𐮭𐮮𐮯𐮰𐮱𐮲𐮳𐮴𐮵𐮶𐮷𐮸𐮹𐮺𐮻𐮼𐮽𐮾𐮿𐯀𐯁𐯂𐯃𐯄𐯅𐯆𐯇𐯈𐯉𐯊𐯋𐯌𐯍𐯎𐯏𐯐𐯑𐯒𐯓𐯔𐯕𐯖𐯗𐯘𐯙𐯚𐯛𐯜𐯝𐯞𐯟𐯠𐯡𐯢𐯣𐯤𐯥𐯦𐯧𐯨𐯩𐯪𐯫𐯬𐯭𐯮𐯯𐯰𐯱𐯲𐯳𐯴𐯵𐯶𐯷𐯸𐯹𐯺𐯻𐯼𐯽𐯾𐯿𐰀𐰁𐰂𐰃𐰄𐰅𐰆𐰇𐰈𐰉𐰊𐰋𐰌𐰍𐰎

Dokusyû / Hon 7 カイ ミタイ オモッテ、コナモノ 7 カイ
ミタシタ。コノ Hon ガ イクラカデモ Mokuteki 2 ツイナ コナ ムシ
コノ 7 アリマス。

オノコノ Hon コノ Kanzi 7 ツカッテ アリマス カラ イチチ Mozi 7
カイ ミセナケレバ Imi ガ ツカラナイ フタ Kotoba 7 ナイ タメ コノ マ
Radio デ ホーソー シテモ、マタ ムシデ キカセテモ ムク Wakaru ハズ デス。
マタ コノ Hon 7 ハズメノ Bubun 7 Nipponsiki Rômazi ガ
Kanzi カナリニ ツカッテ アリ、アノ Bubun 7 Esperanto-siki
Rômazi ガ ツカッテ アリマス。

Rômazi フカサモシ タメ デ カイ アル ノデ Hazime 7 ムシニクイ コノ
フ オモイマスガ、ソレヲ Rômazi ニ ハク ムシナレテ モラッテ Esperanto
7 ムシ フキモハク ムシ ムシニ ナッテ オシタ タメ Rensyû フ オモッテ
セモ ムシナレテ オシタ ノデス。

1957-nen 4-gatu

Tyosya

1/12 22/12

(コノ Hon 7 Rômazi ツカフ Esperanto 7 setumeiz ツイ
Matigai ガ アツタリ、Soegaki シタ コノ ガ アリマシタ イリヨナク
7 ゴチニ イクダサル ムシ オネガフ モーシ アゲマス。)

6. 77
7. 111
ato
(2)
77
11

ES
マスガ
a(ア
P ヲ
デス。
「ガー
ES
ヒロツ
ダ、ア
era
ソノタ
Hatu
ソビテ
ツケ
Bunp
サイ
Yobi
ノ デス
アルカ

ES
マスガ
a(ア
P ヲ
デス。
「ガー
ES
ヒロツ
ダ、ア
era
ソノタ
Hatu
ソビテ
ツケ
Bunp
サイ
Yobi
ノ デス
アルカ

ES
マスガ
a(ア
P ヲ
デス。
「ガー
ES
ヒロツ
ダ、ア
era
ソノタ
Hatu
ソビテ
ツケ
Bunp
サイ
Yobi
ノ デス
アルカ

ES
マスガ
a(ア
P ヲ
デス。
「ガー
ES
ヒロツ
ダ、ア
era
ソノタ
Hatu
ソビテ
ツケ
Bunp
サイ
Yobi
ノ デス
アルカ

ES
マスガ
a(ア
P ヲ
デス。
「ガー
ES
ヒロツ
ダ、ア
era
ソノタ
Hatu
ソビテ
ツケ
Bunp
サイ
Yobi
ノ デス
アルカ

ES
マスガ
a(ア
P ヲ
デス。
「ガー
ES
ヒロツ
ダ、ア
era
ソノタ
Hatu
ソビテ
ツケ
Bunp
サイ
Yobi
ノ デス
アルカ

- ES
マスガ
a(ア
P ヲ
デス。
「ガー
ES
ヒロツ
ダ、ア
era
ソノタ
Hatu
ソビテ
ツケ
Bunp
サイ
Yobi
ノ デス
アルカ

6. ソノ Tokoro ガ シツカリ オボエラレル マデノ カツシテ サキエ ススマナイ コト.

7. カイツ アル Koto ガ ヨク ワカラナイ トキノ ナンベンモ クリカエシテ ヨムカ、
atomodoriニテ ワカル マデ ヨミカエス コト.

(コト Honノ Kotobaノ 所ニ Imiノ ワカラナイ ノガ アル トキノ
アサガ マダ Otonaノ Kotobaニ ナルテ イナイ) デス カラ sensei
カ Otôsan ナル Otonaノ ヒトニ タズネテ オシエテ イタダキナサイ)

Esperantoノ Moziノ Yobinaノ Hatuonニツキテ

Esperanto ノ 「ガス」ノ コトヲ 「gaso (ゴ-ソ, ga:so)」ノ イイ
マスガ, gaso ノ イハ Moziノ アラバラニ シテ 「ツツ」ニ ヨムガ (ゴ-)
a(ア-), s(ソ-), o(オ-)ノ ナリマス. gaso(ゴ-ソ)ヲ ゴ-ア-ソ-オ-
ノ ヨムダ トキノ Moziノ ヒツヒツノ oto ガ Moziノ Yobina
デス. トコナリ コノ Yobinaノ ドンナニ ハナク マタノ ミヅカク ヨムダモ
「ゴ-ソ」ノ イハ oto ニノ ナリマス.

Esperantoノ Moziノ Yobinaノ 所ニ, ソノ Moziノ
ヒツヒツニ Hatuonガ ナリマス. g, a, s, oノ Hatuonノ
ゴ, ア-, ス, オ- ノ ナリマス. gasoノ 所ニ a(ア)ノ Boon (Esp-
erantoノ Moziノ ナカデ aiveoノ 5moziノ Boonノ イイ
ソノタ) 23moziノ sionノ イイマス) デス カラ ハツキリ「ア」「オ」ノ
Hatuonニマスガ, g r sノ sionデス カラ 「ガ」「ス」ノ ナリマス.
ソレヲ コノ 4ツノ otoノ マラタ 「ガ」「ス」「ア」「オ」ヲ ハナク ヨム 「ガソ」トナル
ツク デスカ, コレヲ Esperantoノ Kotobaノ Kisokuデ アル
Bunpôニ シタガツテ ヨム 「ゴ-ソ」ノ ヨムコトニ ナリマス.

サイゴニ gasoノ Yomikataノ osaraiヲ ヲマス, gasoノ
Yobinaノ ゴ-ア-ソ-オ- ノ ナリ, Hatuonノ ゴ-ソ トナル
ノ デス. コレデ Moziノ Yobinaノ Hatuonガ ドンナモノ デ
アルカガ ヨク ワカヌ コトト オモイマス.

Dai 2 nitime

Rômazi / Osarai

Esperanto / Benkyô z Hailu mai Rômazi / Osarai
ヲ シテ オキマシヨ。 ムタ Hyôヲ ミテ フスレテ イル Moziヲ ヨク オボエ,
ツギノ ノービノ Esperanto-siki Rômaziノ クラバテ シマシヨ。

Aa	li	Uu	Ee	Oo				
ka	ki	ku	ke	ko	kya	kyu	kyo	
sa	si	su	se	so	sya	syu	syo	
ta	ti	tu	te	to	tya	tyu	tyo	
na	ni	nu	ne	no	nya	nyu	nyo	
ha	hi	hu	he	ho	hya	hyu	hyo	
ma	mi	mu	me	mo	mya	myu	myo	
ya	(i)	yu	(e)	yo				
ra	ri	ru	re	ro	rya	ryu	ryo	
wa	(i)	(u)	(e)	(o)				
ga	gi	gu	ge	go	gya	gyu	gyo	
za	zi	zu	ze	zo	zya	zyu	zyo	
da	(zi)	(zu)	de	do	(zya)	(zyu)	(zyo)	
ba	bi	bu	be	bo	bya	byu	byo	
pa	pi	pu	pe	po	pya	pyu	pyo	

1. Haneru-on / 「シ」ヲ スベテ「ハ」ニ カル。

2. Hipparu-on / Eoon / zi / ウエニ 「ハ」ヲ ツケル。

Dai 3 nitime

Esperanto-siki Rômazi

マエノ ペーロノ Rômazi 50-on Hyô ヲ ツギニ Esperanto-siki
 デ アラワシテ ミマショウ。 Doko ガ チガツテ イル デショウカ? Huto-mozi
 ノ フコダヨ ヨク Tyôdi シテ ミテ クダサイ。

Aa	li	Uu	Ee	Oo			
ka	ki	ku	ke	ko	kja	kju	kjo
sa	ŝi	su	se	so	ŝa	ŝu	ŝo
ta	ĉi	cu	te	to	ĉa	ĉu	ĉo
na	ni	nu	ne	no	nja	nju	njo
ha	hi	hu	he	ho	hja	hju	hjo
ma	mi	mu	me	mo	mja	mju	mjo
ja	ji	ju	je	jo			
ra	ri	ru	re	ro	rja	rju	rjo
ŭa	ŭi	(u)	ŭe	ŭo			
ga	gi	gu	ge	go	gja	gju	gjo
za	zi	zu	ze	zo	ĵa	ĵu	ĵo
da	di	du	de	do	ĝa	ĝu	ĝo
ba	bi	bu	be	bo	bja	bju	bjo
pa	pi	pu	pe	po	pja	pju	pjo

1. Haneru-on ヲ アラワス 「n」ノ あわニ 「m」モ ツかわ。
2. Hipparu-on ニ 「h」ヲ ツケズ, Boon ヲ フタツ ツズカス。

Dai 4 nitime

Esperanto-siki Rômazi / Yomikata (1)

Nippongo Rômazi r Esperanto-siki Rômazi / Tigai / Dai 2 nitime, Dai 3 nitime / Hyô ㇿ クラベㇿ エマヒタ カラ ダイタイ
ワカマタ コㇿ オヒマタ. Kyô カラワ モㇿ フウシツ Kenkyû ムㇿ ムカ
オホイマヒョー. Benkyô / ムㇿ / zyunzyo ㇿ ススマタ.

1 Mozi / Tigai: Esperanto-siki r Rômazi-siki / Mozi / Tigai / クラベㇿ ムヒツ アリマタ.

2 Yomikata / Tigai: Esperanto-siki r Rômazi-siki / Yomikata / Tigai / ムヒツ アリマタ.

3. Yobina r Hatuon: Esperanto / Mozi / ムヒツ
/ Yobina r Hatuon / ムヒツ アリマタ. ㇿ 「Yobina」 r
「Hatuon」 r ㇿ コㇿ ムヒツ 3ㇿ-ムㇿ ムカマタ setumei ムㇿ
オヒマタ.

4. Hatuon / sikata: Esperanto-siki r Rômazi-siki / Mozi / Hatuon / sikata / ムヒツ アリマタ. ㇿ カマカㇿ r
Bankoku Hyôon-mozi ㇿ アリマタ コㇿ ムㇿ.

5. Rensyû: ムカマタ Rensyû / ムカ Kotoba / クラベㇿ アリマタ
ㇿ, ムカ Yomikata / ムカ ムㇿ クラマタ Rômazi / ムカ Kimoti ㇿ
ムㇿ ムㇿ. Kotoba / ムカ Imi / ムカ アリマタ, ムカ オホイマ
ㇿ ムカ ムㇿ.

A-gyô

Esperanto-siki	A,a	a _ㇿ	i _ㇿ	u _ㇿ	e _ㇿ	o _ㇿ	ㇿ
Rômazi-siki	A,a	a _ㇿ	i _ㇿ	u _ㇿ	e _ㇿ	o _ㇿ	ㇿ

1. Mozi / Tigai

コノ aieuo 5ツノ Mozi ノ Esperanto デモ Rôhazi R マツタ
オナジ デス。

2. Yomikata / Tigai

aieuo ノ 5ツツ Boon R イイ, Yomikata ノ Rôhazi R ゼツ
オナジ デス。

3. Yobina R Hatuon

コノ Mozi ノ ヲノ Yobina E Hatuon E Rôhazi-siki R ナ
オナジ デス。 Yobina R イハ コノ Hatuon R イハ コノ ニ ヲイテ ノ
コノ カラ 5ペ-ジ マエニ setumei ヲテ アリマス カラ ヲビデオイテ クダサイ。

4 Hatuon / Sikata

コノ aieuo 5ツ ノ Rôhazi R マツタ オナジニ ヲマス。 「a」ノ Rô
R デモ 「ア」, 「i」ノ イツデモ 「イ」 R イハ ヲ-ニ ヲマスガ タ 「u」ダ
ノ Nippongo ノ 「ウ」 ヲリノ スコビ Kutiヲ Rガセテ チョ-ド ヒツツ
ノ men ノ ヲ-ニ Kutiヲ Rガセテ Hatuon ヲマス。 a, i, u, e, o ノ
Hatuonスル Rノ タ 「Kuti」ノ Katatiヲ カエシ タ 「Kutibiru」
ノ Ha ナ Sita ナ 「Koe」ヲ 「mendô」ヲ コノ
ナリ カラ Hatuon ノ sikata ノ Kantan デス。

a (ア-、a:) ノ グ-ッ R Kutiヲ オナク アナテ, Nippongo ノ 「ア」 R ナ
ヲ-ニ Hatuon ヲマス。

i (イ-、i:) ノ Kuti ノ カナ ナ sayûニ グ-ッ ヒテ Yokoko ナ
Katatiニ ナリテ Nippongo ノ 「イ」 R ナ ヲ-ニ Hatuon
ヲマス。

u (ウ-、u:) ノ Kuti ナ グ-ッ Maruku ナ Hatuon ヲマスガ
Esperanto ノ 「u」 ノ Nippongo ノ 「ウ」 ヲリノ イナナ Kuti
ヲ Rガセマス。

e (エ-、e:) ノ Kuti ノ Kado ナ Yokoko ニ スコビ ヒテ, Kuti ナ
「a」 R 「i」ノ ナナ グ-ッノ Katatiニ ナリテ Nippongo ノ 「エ」
R ナ ヲ-ニ Hatuon ヲマス。

o (オ-、o:) ノ Kuti ナ マルク ナ 「a」 R 「u」ノ ナナ グ-ッノ Kuti
ニ ナリテ Nippongo ノ 「オ」 R ナ ヲ-ニ Hatuon ヲマス。

5. Rensyû

Mozi ①inko ②ungo ③erano ④oro ⑤ameriko

Hatuon ①イーノ ②ウーノ ③エーノ ④オーノ ⑤アメリーノ

Imi ①インキ ②ツメ ③マチガイ ④キン ⑤アメリカ

チューイ

Rômazi r オナジ ョーニ Esperanto ニエ Ômozi (A, I, U, E, O, KA, SA, TA, NA----) r Komozî (a, i, u, e, o, ka, sa, ta, na----) r アツテ, Ômozi の Hito / Namae, Toti / Na, Hon, Zassi / Hyôdai, Kanban ナドノ カキハジメ / Mozi マタノ ヲ Hyôdai ナドノ ゼンブ, Mozi ヤ Bunsyô / カキハジメ / Mozi ニ ツカイマス. ヲノオノ Mozi ニウ スベテ Komozî ヲ ツカイマス.

Pa-gyô

Esperanto-siki	P, p	pa _ハ pi _ヒ pu _フ pe _ヘ po _ホ
Rômazi-siki	P, p	pa _ハ pi _ヒ pu _フ pe _ヘ po _ホ

1. Mozi / Tigai

Pa-gyô / Mozi の Esperanto-siki へ Rômazi r オナジデス.

2. Yomikata / Tigai

pa-gyô / Yomikata の Rômazi r オナジデスガ, タダ「pu」ノ Hatuon ガ Nippongo r スコシ チガイマス.

3. Yobina r Hatuon

P, p / Yobina の ホー(po:)デ, Hatuon の フ(p) デス.

4. Hatuon / Sikata

P, p の kutibiru ヲ ツカイマスガ, ヲ Hatuon / Sikata の マズ kuti ヲ カル ムスデ オテ Koe の ダサニ iki ダケデ プー r kutibiru ヲ オビケル r ヲ oto ガ デマス. pu ノ oto の (2) Yomikata / Tigai / rコデ Tyûi ヲ ョーニ Nippongo / 「フ」ノ oto r Tigaiマス. A-gyô / 「U」ノ Hatuon / rコデ setumei ヲ ョーニ U ノ kuti ヲ rコデ Hatuonズノデ pu

€ Kutu r rガサセチ フー r Hatuon シマス.

5. Rensyû

Mozi ①pano ②piedo ③pupo ④peni ⑤pomo

Hatuon ①パ-ノ ②ピ-ド ③プ-ポ ④ペ-ニ ⑤ポ-モ

Imi ①パン ②アシ ③ニフキョー ④リョクスル ⑤リシゴ

Ba-gyô

Esperanto-siki	B, b	ba _ハ bi _ヒ bu _フ be _ヘ bo _ホ
Rômazi-siki	B, b	ba _ハ bi _ヒ bu _フ be _ヘ bo _ホ

1. Mozi / Tigai

Ba-gyô = ツカヘ Mozi € Rômazi-siki r マツタク オナジ デス.

2. Yomikata / Tigai

Yomikata の Esperanto-siki r Rômazi-siki r マツタク オナジ デスガ, bu ダケノ マヱノ pu ノ Hatuon , rキニ setumei-
シタ ヱニ Nippongo rノ Yomikata , チダヘ コニ Tyûi スルヲ.

3. Yobina r Hatuon

B, b ノ Yobina ノ ボー (bo:) デ, Hatuon ノ ブ (b) デス.

4. Hatuon / Sika

B, b € kutibiru ヲ ツカヘ Hatuon シマスガ, Oto ノ ダシカダ

p r マツタク オナジデ, p ノ ikiデ kutibiru ヲ オシアケル ガ b ノ
Koe デ ブー r kutibiru ヲ オシアケル デス.

5. Rensyû

Mozi ①banko ②biero ③butono ④benko ⑤boato

Hatuon ①バー-コ ②ビ-ロ ③ブ-ロ ④ベン-コ ⑤ボ-ア

Imi

①ギンコー

②ビール

③ボタン

④コシカケ

⑤ボー

Ma-gyô

Esperanto-siki	M,m	ma _マ	mi _ミ	mu _ム	me _メ	mo _モ
Rômasi-siki	M,m	ma _マ	mi _ミ	mu _ム	me _メ	mo _モ

1. Mozi / Tigai

Ma-gyô / Mozi の Esperanto-siki と Rômasi-siki と
マゾク オナジ デス。

2. Yomikata / Tigai

Yomikata と Rômasi-siki と オナジ デスガ、タダ mu タケ ガ
Nippongo と チガハ ヲフ pubu と オナジ デス。

3. Yobina と Hatuon

M,m / Yobina の モー (mo:) デ、Hatuon の ム (m) デス。

4. Hatuon / Sikata

M,m / Hatuon / sikatanp, b と オナジ kutibiru を ヲカマス。
pbq Hatuon と ｋの iki を、ムスダ kuti / ホーエ デマスガ、iki
と Hana / ホーエ デハ m / oto に ナリマス。

5. Rensyû

Mozi ①mano ②mimiko ③muro ④mensogo ⑤mono

Hatuon ①マノ ②ミミコ ③ムロ ④メンソーゴ ⑤モノ

Imi ①チ ②チマネ、ミグリ ③カバ ④ウツ ⑤オカネ

Esperantisto (エスペラントイスト)

Esperantisto と イハ ノハ Esperanto を ヲク エツタイチ ヲルヲ
ツカフツ ヒト ノ コト デス。

Dai 5 nitime

Esperanto-siki Rôhazi / Yomikata (2)

Fa-gyô

Esperanto-siki	F, f	fa _フ fi _フ fu _フ fe _フ fo _フ
Rôhazi-siki		

1. MOzi / Tigai

F, f / Mozi の Nippongo-Rôhazi 二つ アリマセシ.

2. Yomikata / Tigai

Fa-gyô の Yomikata 二 Rôhazi 二つ アリマセシ, Hatuon の Yomikata 二 Tyûi 二つ クダサイ.

3. Yobina r Hatuon

F, f / Yobina の フ-(fo:) デ, Hatuon の フ(f) デス. コニ カイテアル フ / フ, フのフの「フ」r「オ」ヲ ヒツクルマデ イツハニ ヨムル ヲ シメシテ アル デス. フ デ ツナイデ アル フキの フ 二ツノ Mozi 二つノ フツフツニ ヨビテ アリマセシ. フの フ, フ r フツツ ヨビテ マチガイ デス.

4. Hatuon / sikata

sita-kutibiru ヲ ウエノ Maeba デ カル オサエ ママ iki ヲ ダス f / oto ガ デマス. コノ oto ノ フニ aiveo ヲ ツケテ フニ Hatuon 二ツノ Esperanto-siki ノ fa, fi, fu, fe, fo ノ oto ガ デマス.

5. Rensyû

Mozi ① fama ② fino ③ fumo ④ fero ⑤ fonto

Hatuon ① フーマ ② フーノ ③ フーモ ④ フーロ ⑤ フーヴ

Imi ① ナダカイ ② オワリ ③ ケムリ ④ テツ ⑤ イズミ

Va-gyô

Esperanto-siki	V, v	va ヴァ	vi ヴィ	vu ヴ	ve ヴェ	vo ヴォ
Rômazî-siki						

1. Mozi / Tigai

V, v / Mozi e Rômazî ni wa arimasen koto o oshiete kudasai.

2. Yomikata / Tigai

Va-gyô / Yomikata mata Rômazî deki naranai no de hatsutan / sikata ni yoku tyûi shite kudasai.

3. Yobina / Hatuon

V, v / Yobina no ヴァー (vo:) de, Hatuon no ヴ (v) desu.

4. Hatuon / Sikata

f / otozadasu koto oshite Kuti / katati o shite mata koezidasu
V, v / oto = ナリマス. fa fi fu fe fo = ニゴリテンヨウウツ
Hatuon suru va vi vu ve vo = ナル オモツテ クダサイ.

5. Rensyû

Mozi ①vaporo ②vi ③vundo ④vento ⑤voki

Hatuon ①ヴァポロ ②ヴィー ③ヴァンド ④ヴェント ⑤ヴォーキ

Imi ①ジョーキ スチーム ②アタキ ③キズ ④カセ ⑤ヨブ

ESPERANTO (イスペラント)

Esperanto no ita no Esperantogo de Kibôsuru Hito, Kibôsyar ita Imi ni narimasu. Gakushû no Hakase ga hûxte Esperanto o sekai ni Happyô suru koto, "Esperanto Hakase" no ita Tukurina de Happyô shite desu. Sô no chie ni Yobina o Kokusaigo no Namae ni narimasu.

Sa-gyô

Esperanto- siki	S, s	sa si su se so
Romazi-siki	S, s	sa su se so

1. Mozi / T'iqai

sa-gyô / Mozi の「シ」 / かわり さん Esperanto-siki の
Rômazi-siki の かわり Mozi です。 「シ」 の Rômazi-siki さん
si の かわりさん, Esperanto-siki さん si の かわり Mozi です。

2. Yomikata / Tigai

sa-gyô / Yomikata no si / 本の Rômasi-siki 本マシ
オジニヨマス. si / Yomikata no Esperanto-siki デノ「エ」
トヨマス. マシテ Rômasi-siki デヨ「エ」デノアリマセウカラヨク
Yomikata = Tyûi シテウダサイ.

3. Yobina r Hatvon

S, s , Yobina の γ -(so:) 子, Hatuon の $s(s)$ 子.

4. Hatuon, sikata

s / oto 7 d's = n, sita / mae / ko - r Haguiki / pida' =
 sukima 7 akete iki 7 kasuyasete shimasu. ko s = ave
 o 7 wakete yumi wozure sa, su, se, wo r iwa oto ka desu. si d'o
 Rômazî-siki = tai Yomikata 7 imasu. 2. / koro de setumei
 uta yo = Esperanto / si / Hatuon no bi (ji) ni arimasu.
 sui desu. sui 7 sui / yo = oyaji no itakaseba. katadze "su" r "i" 7
 2m i-yo-shi = uta sui r Hatuon utakereba" narimasu.

5. Rensyû

Mozi ①sako ②simio ③supo ④seka ⑤sono

Hatvon ①サー ②スイミール ③スーホ ④セーカ ⑤ソー

1 mi ① フクロ ② オサル ③ スーパ ④ ねむい ⑤ オル

Za-ayô

Esperanto - siki	Z, z	za zi zu ze zo
Rômazi - siki	Z, z	za zu ze zo

1. Mozi 2. Tigai

Za-gyô , Mozi の 'Zi' , かつ Rômazi-siki r Esper-
anto-siki r 多くの かつ だ。 Rômazi-siki 二 z i r 一
Mozi の アリマス, Esperanto-siki r Yomikata が だ
かつ Mozi の Hyô 二の だ アリマス。

2. Yomikata 2 Tigai

Za-gyô / Yomikata の「Z」 / 井川 Rôhazi-siki のマダ
 オナデス。 「Z」 / Yomikata の Esperanto-siki デの「ゼ」
 オエマ。 Rôhazi / 「Z」 デの リマエ。

3. Yobina r. Hatuon

$Z, z \in Yobina$ の $\psi^*(z)$ は, $Hatuon$ の $\hat{z}(z)$ である。

4. Hatuon 7 sikata

Z ノ oto ヲ ダス ニワ, S ノ oto ヲ ダス Rf ノ Kutei ノ カチ
ヲ シテ Koe デ ダシマス. Z ノ アニ Queo ヲ ヲケテ Hatuon シタ
ガ サ, ス, セ, ソ ニ ナル ワケ デス. Zi ダケワ Rôhazi-siki ニ ナリ Yo-
mikata ヲ シマス. Esperanto ノ Zi ノ Hatuon ノ ズ デ シ
デワ アリマセウ. ナオ ズイ ノ Zui ノ ヨーニ ヨビデワ イケマセウ. カケラズ
ズ, R イ ノ ヌツヲ イツシヨニ シテ ズ R Hatuon シタケルハ ナリマセウ.

5. Rensyû

Mozi ①zamenthof ②zinko ③zumi ④zebuo ⑤zono

Hatunon ①ゲームンOFF ②スーパ ③スーニ ④セブーオ ⑤ブーノ

1 mi ① イスパーランド ② アエン (キング) ③ ブンブン丸 ④ コブウシ (ハチナゲ) ⑤ オビ

Dai 6 nitime

Esperanto-siki Rôrazi / Yomikata (3)

Ta-gyô

Esperanto-siki	T,t	ta _タ ti _チ tu _{チュ} te _テ to _ト
Rôrazi-siki	T,t	ta _タ te _テ to _ト

1. MOzi / Tigai

Ta-gyô / MOzi の Esperanto-siki と Rôrazi-siki とマダウ オナレマス。

2. Yomikata / Tigai

Ta-gyô / Yomikata の ti, tu / 其の Rôrazi-siki とオナレマスガ, 「ti」「tu」の Rôrazi-siki = ナ Yomikata の xw 3r = 30 Tyûi, ヲナレバナリマス。

3. Yobina と Hatuon

T, t / Yobina の r-(to:) デ。Hatuon の r(t) デス。

4. Hatuon / sikata

t の koe が タデニ iki タデ デス oto デス。エ / Ha / 其ニ sita / ナ ヲ ツケタイキ kyû = sita ヲ ハシテ デス iki / oto デス。2) oto = a, e, o ヲ ツケテ ダス タ, テ, ト ナリマス。ti, tu / oto の Rôrazi デウ ナラツテ イナイ。Nipponzin ニハ ナカカ Hatuon ニハ イ oto デス。Romazi-siki デウ ti ヲ 「チ」, tu ヲ 「チュ」 と ヲナレマスガ, Esperanto-siki デウ ti の 「チ」, tu の 「チュ」 と Hatuon ヲナレマス。

ti, tu / Hatuon の Rensyû xw = 27. ta, te, to, タ, テ, ト, タ, テ, ト, ta, te, to, タ, テ, ト と ナリ 其ノ クリカエ ナラ, ヲ kuti / katati が カタイデ, ta, te, to / ナイニ ti, tu ヲ ハサレデ ta, te, to, タ, テ, ト, ta, te, ti, to, tu, タ, テ, チ, ト, チュ, タ, テ, ト, ta, te, ti, to, tu と クリカエ。クリカエ Hatuon ニハ イル イツ

マニカ Esperanto-siki ノ ti, tu ガ Hatuon デキル ヨーニ ナリ
マス。デキナカレバ ナバハモ クリカエ Rensyû シテ クダサイ。

5. Rensyû

Mozi otabako otimi otute oteo otomato

Hatuon ①タハ-コ ②ヒ-ミ ③リュ-テ ④テ-オ ⑤ハマー

Imi ①タハコ ②オフルル ③マツタク ④オチャ ⑤ハマー

Da-gyô

Esperanto-siki	D, d	da _ダ	di _{ディ}	du _{デュ}	de _デ	do _ド
Rômazi-siki	D, d	da _ダ			de _デ	do _ド

1. Mozi / Tigai

Da-gyô ノ Mozi ノ Rômazi-siki r Esperanto-siki r
マツタク オナシ デス。

2. Yomikata / Tigai

Da-gyô ノ Yomikata ノ di, du ノ かわ Rômazi-siki *
r スッキリ オナシ デス。タダ di, du ノ 2ツ Mozi ノ Rômazi デ
ナラツテ イナイ Tokubetu ナ Yomikata ヲ スル Mozi デアル コニ
ヨク Tyûi シテ クダサイ。

3. Yobina r Hatuon

D, d ノ Yobina ノ D-(do-) デ, Hatuon ノ d(d) デス。

4. Hatuon / sikata

t, o to ヲ ダス rkr オナシ kuti, katati デ koe ヲ d'en d
ノ oto ニ ナリマス。コノ d ノ oto = a, e, o ヲ ヲケテ Hatuon ヲ
スル ダ, デ, ド ニ ナリマス。

di, du ノ Hatuon ヲ Rensyû スル コノ ti, tu ヲ Hatuon

スル rキr オナヅ kuti / katati デ, ダ, デ, ド, da, de, do, ダ, デ,
 ドイ, ド, ドウ, da, de, di, do, du r ナンバエ クリカエ Hatuon ヲナ
 100r, di, du / Hatuon ガ オナヅルマス。

5. Rensyû

Mozi ①danubo ②diamanto ③du ④demando ⑤do

Hatuon ①ダヌ-ホ ②ダイヤモンド ③ドゥ ④デマ-ンド ⑤ドー

Imi ①ダニユ-ブガウ ②ダイヤモンド ③2 ④モリダ ⑤ドウ

Na-gyô

Esperanto- siki	N,n	na + ni = nu x ne ネ no ,
Rômazi-siki	N,n	na + ni = nu x ne ネ no ,

1. Mozi / Tigai

Na-gyô / Mozi の Esperanto-siki r Rômazi-siki
 r マツタ オナヅ デス。

2. Yomikata / Tigai

Na-gyô / Yomikata r Rômazi-siki r マツタ オナヅ デス。

3. Yobina r Hatuon

N,n / Yobina の ノ-(no:) デ, Hatuon の x(n) デス。

4. Hatuon / sikata

n / oto の, sita / saki ヲ ue / Ha / ウラニ アタマ iki
 ヲ Hana / ホ-エ ダシナガラ 「シ」r イエバ デマス。 タダ Nippongo デ 「シ」
 ヲ Hatuon スル r キ 「シ」ニ チカク イマスガ, Esperanto デ 「ヌ」
 ニ チカク Hatuon ヲマス。 Esperanto デ sita / saki ヲ ウエ / Ha
 ノ ウラニ アテテ シ r イウ / デ 「ヌ」ニ ナリ。 Nippongo デ sita ヲ
 ハナシテ オイテ シ r イウ カラ 「シ」ニ ナル デス。

n) Hatuonヲ アラウス ニ 「ス」ヲ ヲカフチ イマスガ, コレヲ 「ス(nu)」ノ
 ヨーニ Hatuonニテヲ イガマセシ. 又「ハ」 Esperanto ノ Tentonヲ ヨム
 トキニ, イスペラ_ツノ, イスペラ_スノ, テ_ツノ, テ_スノ ト Hatuon ニテヲ イガマセシ.
 n) 上ノ Hatuonズル トキニ sitaノ sakiヲ uebaノ ヲラニ ヲケテ
 ヨムコトニ ヨク Tyûiニナガラ イスペラ_スノ, テ_スノ ノ ヨーニ Hatuonニテ
 クダサイ.

5. Rensyû

mozi onazo onia onubo onepo onomo

Hatuon ①ナーブ ②ニープ ③ヌーボ ④ネーポ ⑤ノーモ

Imi ①(カオ)ハナ ②(タビ)タビ ③(イラ)イラモ ④マゴ ⑤ナマエ

Ca-gyô

Esperanto- siki	C, c	ca _ツ ci _ツ cu _ツ ce _ツ co _ツ
Rômazi-siki		tu _ツ

1. Mozi ノ Tigai

Ca-gyô ノ Mozi ノ Rômazi-siki ニヲ アリマセシ カラ シツカリ
 オボエテ クダサイ.

2. Yomikata ノ Tigai

Ca-gyô ノ cu ガ Rômazi-sikiノ tu ト マツタリ オナジデ 「ツ」
 ト ヨミマスガ, ソノホカニ Tokubetut Yomikataヲ シマス カラ ハツカリ
 オボエテ クダサイ.

3. Yobina ノ Hatuon

C, c ノ Yobina ノ ツ(=tso:) デ, Hatuon ノ ツ(ts) デス.

4. Hatuon ノ Sikata

c ノ otoノ sita ノ sakiヲ ウエノ Hagukiニ ヲケテオイト iikiデ

ハルツサセテ、ミヅカク マヨク 「ツ」トイハル デマス。

Rōmazi-siki ニワ Ca, ci, ce, co ノ Hatuon ガ アリマセンカラ
ムツカシイト オモイマス。 ア, イ, ウ, エ, オ ノ Maeニ カルク 「ツ」ヲ ツケテ ヨム
ツア, ツイ, ツウ=ツ, ツエ, ツオ ト ナツテ Ca, ci, cu, ce, co ノ Oto ガ
デマス。

5. Rensyū

Mozi ① caro ② cikado ③ cetera ④ colo

Hatuon ① ツア-ロ ② ツイカ-ド ③ ツエテ-ラ ④ ツオ-ロ

Imi ① ロシヤノ ② セミ ③ ノコリノ ④ インチ
 コ-タイ

Zamenhof (ザメンホフ)

ザメンホフ ノ Esperanto ヲ ツクッタ Hito デ、タダシイ Namae ノ
ラザ-ロ ルドヴィ-コ ザメンホフ (Lazaro Ludoviko Zamenhof) デス。
1859ネン 12ガツ 15ニチニ ポ-ランド ノ ビヤリスツク Matiニ ウマレマシタ。

ポ-ランド ニワ スダチ、ロシア、ドイツ、ポ-ランド ノ 4ツノ Minzokuガ スンデ
アリ、Kotobaモ、Hûzokuモ、Syûkyôモ チガツテイテ Kenkaiガ タエ
マセン デシタ。 Zamenhof ノ Kodomoノ トキ ニハ ポ-ランド ノ クニノ
2ノ カナシイ Arisamaヲ ミルニ ツケテ、Sekaiノ Kotobaカ オナヅデ
アツタ ナラ Kenkaモ Sensôモ オツラズ Heiwaニ クラセルト、オモツテ
Esperanto ヲ ツクル コトヲ カヅガエテ イマシタ。 マダ Tyûgakusei
ノ コト イマ ノ Esperanto ノ Motoニ ナル ヨ-ナ Kotoba ヲ
カヅガエシタ コトガ アリマス。 ソノダ Daigakuデ Igakuヲ Benkyô
シナガラ Esperantoヲ リツパテ Kokusaigoニ シアゲテ イマシタ。

ソシテ 1887ネンニ "Esperanto Hakase" ト イハ Naデ アタラシイ
Kotobaヲ Happyôシマシタ。 モチロン イロイロ Hantaiスル モノガ
イマシタガ、sanseisyaノ コトニ Nozomiヲ ステ Sendenニ チカラ
ヲ ソツギマシタ ノデ Esperantoヲ Benkyôス Hitobitoガ ツエテ、
1905ネン ニワ フランス デ Dai 1kai Sekai Esperanto Daikai
ガ ヒラカレタ ホト デシタ。 1917ネン 4ガツ 14ニチ、57サイノ トキニ Sekai
Sensôヲ シンパシ シナガラ ナクナシマシタ。

Dai 7 nitime

Esperanto-siki Rôhazi 2 Yomikata (4)

Ra-gyô

Esperanto-siki	R, r	ra _ラ ri _リ ru _ル re _レ ro _ロ
Rôhazi-siki	R, r	ra _ラ ri _リ ru _ル re _レ ro _ロ

1. Mozi 2 Tigi

Ra-gyô Mozi Esperanto-siki r Rôhazi-siki r
マツタ オナジ デス。

2. Yomikata 2 Tigi

Ra-gyô Yomikata e Esperanto-siki r Rôhazi-siki
r マツタ オナジ デス。タダ Esperanto-siki ㊦ Edokkoガ sita
ヲ フルベテ アラマシキ イマスガ アノヨニ フルベテ ヨム デス。

3. Yobina r Hatuon

R, r Yobina ノ ロ-(ro:) ギ, Hatuon ノ ム(r) デス。

4. Hatuon 2 sikata

r / oto ヲ ダス rキ sitaヲ Ha ノ ウラニ アテナイジ sita ノ
サキヲ フルベテ 「ル」 r イエバ イイ デス。sita ノ サキヲ コマカク ハキ
フルベテガラ ラリルロ r イヤ Esperanto-siki ノ ra, ri, ru, re
ro ガ タダシク Hatuon サルマ。

5. Rensyô

Mozi ①rakonto ②ridi ③ruso ④remi ⑤rozo

Hatuon ①ラコント ②リーディ ③ルーソ ④レーミ ⑤ローゾ

Imi ①モノガタリ ②ワラウ ③ロシヤン ④コグ_(フネ) ⑤バラ

La-gyô

Esperanto-siki	L, l	la ㄌㄚ li ㄌㄣ lu ㄌㄨ le ㄌㄝ lo ㄌㄛ
Rômazi-siki		

1. Mozi / Tigai

La-gyô / Mozi の Rômazi デ ヲカフナイ ノデ ナラツテ イマセシガ Esperanto デノ ヲカイマス カラ ヨク オホエテ クダサイ。

2. Yomikata / Tigai

La-gyô の Nippongo ニ ナリ Yomikata ヲ シマス カラ シツカリ Yomikata ヲ Rensyû シテ クダサイ。

3. Yobina / Hatuon

L, l / Yobina の ロ- (lo:) デ, Hatuon の ロ (l) デス。

4. Hatuon / sikata

l / oto の, sita / saki ヲ ヲエ Haguki = カルク ツケテオイト sita / Ryôwaki カラ koe ヲ ダス ㄱㄱニ デマス。

ヨク okuba ガ イタイ ㄱㄱニ sita / saki ヲ Haguki = クツツケタ マツ ヲクタイ kûki ヲ sita / Ryôwaki カラ kuti / ナカニ スイクミ マスカ, ヌノ ヨ-ニ シテ ナルハユエ kûki ヲ スイクビデミテ, sita / ツケカタ ナ kuti / Katati ヲ カエタイ ヨ-ニ Tyûi シナガラ, コビノ Koe ヲ ダビテ ヲリルロ ㄱㄱ イツテ ミル Esperanto-siki / la, li, lu, le, lo ガ ダビテ Hatuon デキマス。

Nippongo ニノ La-gyô ヲ アラウス カナ ガ ナリ タメ, ヲリルロ ニ ㄱㄱ ヲ ヲツタ ㄌㄚ ㄌㄣ ㄌㄨ ㄌㄝ ㄌㄛ デ アラウス コニ シテ イマス。

5. Rensyû

Mozi ㄱㄱ labori ㄱㄱ lito ㄱㄱ uno ㄱㄱ letero ㄱㄱ longa

Hatuon ㄱㄱ ㄱㄱ ㄱㄱ ㄱㄱ ㄱㄱ ㄱㄱ ㄱㄱ

lmi ㄱㄱ ㄱㄱ ㄱㄱ ㄱㄱ ㄱㄱ ㄱㄱ

エスペラント 1 年生の記

Y. O. 生

(1) 「牛に引かれて善光寺詣り」

—— 前 奏 曲 ——

「牛に引かれて善光寺詣り」ということがある。普通、人が何かやろうとする時には、何か目的があつて、その人の積極的な意思と行動によつて実行されてゆくのが大部分の場合だが、それが矛盾にひきずられて思いがけない幸せを掴むという時、この諺が使われる。私のエス語入門は正にその通りなんで、世の中というものは、いつもながら本当に不思議なものだと思ふ。

私を引っぱった「牛」は、或小さい会社の三番重役 A さんだ。昨年の夏に入るころ、エスペラント語を勉強したいが、何か参考書をさがしてみてくれないかと頼まれて、書店や新聞社にさいてみたが、要領を得られなかつた。A さんは、少し前に直前にのつたエスペラントの隨筆をよんで刺戟されたのらしかつたが、もう 50 になる。ロマンスクレーの A さんのこの盛んな好學心の衰には、笑利的な理由もあつた。夢をかけている秀文の長男には、先天的なハンデキヤツプが背負はされていて、A さん夫妻は小さい時から心臓を辟いて育ててきた。その長男は優秀な成績で昨春高校を卒業したが、大学もそのハンデキヤツプの故に或宗教関係の大学を選んだのだが、将来、出来れば外国に学ばせて、ハンデキヤツプをカバーしてやりたい、しかし、サラリーマンではとても不可能、さけばエスペラント同学者は互に同志的なつながりで便益を交換しているというし、そうでなくても、この世界語を知っていればきつと役に立つだろうという、有難い親心だつた。A さんは若い時から独学の斗士、エスペラント位、何するものぞの気概に溢れていた。

その頃だつたか、市民会館で在社エス会の集りがあることを新聞で知つた私は、チャンスとばかりに駆けつけ、前会前のひととき、集つていた人たちから参考書その他をさき、A さんに「御報告申上げ」て肩を軽くしたのでつたが、この集りに、今思えば、アリマさん、相沢さん、坂下さん、西里さん等の顔があつたやうだつた。特にヒゲを蓄えた特徴ある相沢さんの顔が印象にのこつた。何となく共産党の斗士のやうな気がしたんだから、人間の第一印象なんてもてににならない。A さんとは独学でやろうという申し合わせだつたから、エス会に入会というやうなことは頭になかつた。当日の会にも、出席しませんかと頻りにすすめられて、ちよつと戸惑つたことを覚えている。

さて、7月下旬である。カナ書き、地図入りの夏期講習会の案内ハガキが

来た。それにはわざわざ、是非お出で下さいという肉筆の書き入れまでした強力なものであった。私自身はそれでも要請の気持はきまらなかった。Aさんのやうに、はつきりした差迫った目標も何もなかった私は、ノ月間、月水金とびつちりつまつた予定を見て、腰を上げるのが何となく臆怖だったのだ。ぐずぐずしていると、ノ人でゆくのはどうも寂しいから景井一しよにゆこうとAさんに引きずられて、やつとその気になった。人生、何が幸せになるか分からないと今にしてつくづく思う。

8月ノ日。仕事に早めに切り上げたAさんは、金融担当の重役として毎日が頭のない会社づとめだったから、清々しい夏の夕陽に美しく映える大学構内を足早やにゆく気持は、定めしこの世の楽園のような張り切った魂の夾やかさを味つたに違いない。話し振りに足並にも弾むような元気いつぱいのリズムがあつた。その若々しさに致取すると共に、美しく又妬ましくさえなつた。この時、ふと頭に浮んだのが「牛にひかれて……」であつた。

“何だか、牛にひつぱられて善光寺へ行つた婆さんみたいですね。Aさんを牛にしてしまつちや申訳ないですが、案外モノにするのは私かもしれませんよ。”

と冗談半分に言つたものだつた。

そして、本当にその通りになつた。Aさんは最初のノ日出たさき。銀行詣でと接待宴でとうとうチンボツしてしまつた。当時暫らくは会う度に、残念だ残念だと繰り返していたが、講習も半分すぎる頃には、流石あきうめにか負け惜しみもあるのか、（いや意気込みだけは本当だと今でも信じている。Aさんてそういう人なんだ）

“仕方がないから独習でやるさ、独学には慣れてるからな”と、強い近眼鏡の奥で精力的な目をギラギラと光らせた。今もつてAさんは仕事に追われて“独学”に手をつけていないらしい。

2. 幼 稚 園

— 夏 季 講 習 会 —

8月の講習会は今思えば懐かしいものだが、当時は正直の所つらかつた。私自身は英語を、学校だけで8年、それに戦後半軍ばかりだったが、それを飯の種にしたこともあつて大分やつていたから、これが大いに役立つて何とか満張り通すことができたが、講習会のスピードには屢々足を疲れた。都合で遅刻でもすると追いつくのに一苦労だ。ましてノ回でも休んだらそれこそ大きな穴があいて、それが致命的とにならないとはいえない。尤もたつた

15 回で、アルファベットの読み方から始めて、一応文法を全部やり短文の解釋からちよつとした作文から歌までカヴァしようというのだから無理はない。エッセンスばかりで「遊び」のない予定表通りの進み方。西欧系統の外国語でもやったことのある人ででもなければ、あのスピードについてゆけなかったとしても批判がましいことなど言えないと思う。

私自身も半分から3分の2位にかがった頃はつらかった。胸潰の日には、20数人(?)いた人もこの頃ではやつと10人位。皆それぞれに頑張り通して来た陣中ばかりなのだが、いろいろなことから推測すると、その中の幾人かは「2年生」であるらしかったから、文字通り初めてエス語と取組んでいたのは、2、3人だったかもしれぬ。この頃になると、頭の中は毎日何をしていてもエス語の断片がゴチャゴチャと躍り狂ってボーンと熱っぽく、正に一種のノイローゼだ。あの縁の表紙が、見る度に神聖にビリビリとひびいて、何ということなしに腹立たしくなる。アス、イス、オスどとか、アント、イント、アト、オト、イトなどという変幻自在の語尾変化、無数とも見えた接頭接尾字。完成時に至つては、頭の中に冷蔵庫でも入れておかなければ破裂しそうになる。それに単語は勿論いつの場合でも語学の基礎だからどうしてもモリモリ暗記しなければならぬ、その上に更に毎日の作文の宿題、熱っぽい頭で親の仇^{カガキ}のやうにしてやつた宿題には、これ以上ないと思われるやうに愚切丁寧な添作のホインキがついて戻ってくる。普通の人の、普通の時の、普通の頭ならば、この誠実さに感謝して一層の意気をかき立てられるべきなのだろうが、悪戦苦斗のエス語ノイローゼ奴には、これが又しやくの種になりそうになる。(西里氏よ、ゆるし給え)

この頃がピンチだった。所謂「胸つきハ丁」。やめてしまおうかと思つたことも2、3度あつた。はじめからはつきりした目的も何ものなしに、引きづられてはじめたフラフラ腰では、少し陣辟が高くなつてくると意気がくじけそうになるのは当然だ。元々、意気のあまり強い方でない私だからここで潰れてしまつた方が自然だったかも知れないが、どんな風の吹き廻しか、この瀬戸際になつたら、猛然とファイトが燃え上つた。切角ここまで頑張つたんだからという気持も少しはあつたし、世界で一番やさしい語学と言われているエス語なんかに負けるものかといつた少々思い上つた自負心もあつたし、或は素外講習費を無駄にしたくないというミミつちさも全然なかつたとは言えなかつたようだ。でも、1番はつきり言えそうなのは、私の性格から、屈辱の圧迫に抗するための最後の自己防衛的ファイトであつたらしい。丁度、大争の時、馬鹿力が出るやうなものである。講習内容は実質的にはますます壁

宙になり喘ぎながらついてゆくのに精一杯という状態は変りなかったが、気持はぐつと楽になった。ノ本、がっちりしたバツクボーンが通った感じである。「100里の道をゆく者は90里を以つて半ばとすべし」古人はうまいことを言う。終講の2.3回前頃になつたらどうやら先が仄かに見えてきたやうになつた。こういう時の嬉しさは、何にもたとえようのない純で清々しいものである。

会場にあてた学生ホールは、昼間は幼稚園に候われているらしく、我々の拝借した机も椅子も超小形であつた。腰をかけるとやつと尻がのつかつて、膝頭が腰より高くなる。机は勿論、膝なんか入らない。暑く時はぐつと身を屈めてという恰好になる。ホールのあちらこちらには遊び道具、ピアノ。七夕の枝かざりがいつまでもそのまゝになつて彩り冬のこしていたりして、隅々から甘いオツパイの匂が漂つて来るやうだつた。立てかけた黒板を挟んでコの字形に集つた大きい生徒がお口を揃えてチィチィバツバ。何十軍もの昔がふと思い出されて、柄になくウェットボールを味つたこともあつた。8月1日の南講の頃は、6時といつてもまだ明るく、8時の終了でもまだ西の空はほのかに茜色が漂つていたが、終講の頃には、始業の6時に早や夕暮がしのび寄り、帰りは細道をライトの世話になつた。北風の移りの早い夏は、このノと月の間に、早や爽やかな初秋の気がホールを減らすやうになつていた。

際どい所でもり返して、哀々厩刻はしたが、とに角皆勤して、頑張り抜いた清々しい感慨を味いながら終講の日を迎えた。機会が与えられたからこんな経験談でもとひそかに心積りしていたが、この日も少し厩刻して、結局流石をすすり、駄菓子をつまみ、雑談の中に終つてしまった。でもこの日は、2.3の先輩が見えられてエス語の自己紹介や経験談をしていただき、まだノ年生までも至つていないのも忘れて、もう「同志」のノ人になつたやうな気持になつた。長い向の講師の皆様には心からの御礼の挨拶をして、少し背がのびたやうないい気持で、通いなれた足元の危い真暗な裏道を帰つた。ひいやりとする秋の夜気が頬に快よかつた。

(3) 治 療 室

—— 5 の 日 会 ——

講習会の終講の日、場所さえ都合ついたら続けて会合を持ちたいという希望が多かつた。勿論私もそうだった。エスぺラントの姿がおぼろに見えかつて来たばかりのここでやめてしまつては、環境に恵まれていない我々は、うすぎたない俗っぽいスモッグの中に吸いこまれる冷雪の杯に消えてなくな

るのは、目に見えている。独学の困難さと能卒の速さは知り過ぎるほど知っている私は、何としてでも続けてほしかつた。それだけに、月3回ながら、研究会開催の通知をいただいた時は嬉しかった。

オノ回にはゆけなかつたが、オノ回には期待に胸くらませて行つた。場所はススキノの中心地、劇場、料理屋、パチンコ屋、商店、カフェー、ノバイ屋と至極華やかな京阪である。指定された家の玄関には「本日定休日」の私がかかつて、その刷書きに、5日、15日、25日とある。多忙な仕業の毎日の中の、貴重な定休日を我々のために提供して下さったことを知つて有難いことと感謝した。玄関を入つてすぐの広い畳敷の部屋、テーブルにのつてゐる雑誌や写真集など、こゝは待合室らしかった。

6時の定刻を過ぎる頃、ノノの青年が来る。私には初対面。互に自己紹介をやつて、この人が後藤氏と知つた。向もなく高校生ノノ。この人は初心者だったが、アリマさんにさいてきたという、如何にも意志型の定時高校生だった。所が半時過ぎても講師の方がノノも見えない。3人で雑談して時間をつないでいたが、ここの奥さんがお茶を出して下さるのにも申訳ない気持である。さけばオノ回の時は講師の方ばかり3人見たが、「生徒」はノノも来なかつたらしい。それで幾分気ぬけされたのかもしれない。仕方なく後藤氏と2人で講習会の続きをボツリボツリやつてみたが、さつぱり気が乗らない。幸い途中で江別にいるという先輩が来て少し教わり、全然無駄ではなかつたが、期待が大きかつただけに大分ガツカリした。オノ回には気屈欠席した自分の事は棚に上げて、ムホンの血が少しさわいだ、そしてこんな生意気さが文面に現われているような素書を相沢さんに出してしまった。今思つても自分の青二オボりに冷汗が出る。

さて、オノ回目からはアリマさんか相沢さん、又は曲里さん、ノ度だけ放送局の木村さん、が相等に來て下さつた。(たったノ回だけ私ノノだけだったことがあつたが)研究会は原則として私と後藤氏がノ節づつよんで訳すという輪談形式。わからない所、まちがった所を先生にたづねたり直していただいたり。初心者めいる時はそのほうに先生がつき、我々は2人だけで進む部屋の中で少し离れて2つの組が声を交錯させて2時間を過ぎた。時々二組共声が途切れて急に静かになると、厚い壁越しに隣のノバイ屋の酔っぱらいのダミ声がぞわめいて聞こえたりした。ノ日にノ回なのだから可戒予習も出来た筈なのに、仕事などを口実に、或は分らなくて先へ進めなかつたりして、ノ日にノ課位しか涉らないことが多かつた。後藤氏とは、我々の理解し得た限りの文法知識で議論を交えたが、何せ暗がりを手さぐりでゆくやみなもの

だったから、すぐ二人とも手が出なくなることも屢々だ。こんな時は勿論すぐ先生に訊いたが、出来る限りこまかく分析して考えてゆくということはとても効果があった。今まで頭の中で散乱したままだった文法もだんだん形がついて系統立って来て、いろいろな変化や言語要素が見分けられるようになった。こうしておぼろ気だったエスペラントというものの姿がよりはつきりとして来たのは、何といても雄歩したと言い切れると思つた。読み方にも解釋にも自分の血が通いはじめた。言はば今までは違うことしか知らなかった赤んぼうが、物につがまりながらもやつと立ち、危かしいながらもヨチヨチ歩きが出来るようになったという所だった。とに角この何回かの研究会は私にとっては最大級の形容詞を使つてもよいほど重要性をもつたものであつた。

10月末になると建具の入つていないこの部屋はさすがに寒く、オーヴァを着たまゝのことが重るようになったが、或る日少し遅れて行つたら、ノつ奥の部屋に移つていた。こゝは治療室らしく、壁にはいろいろなものが貼つてあり、蛍光灯、ラデオ、それに寒くなつては何より有難い薪ストーヴがもえていた。12月の15日まで、何回かをに使わせていただいたのだが、その度に奥さんかお嬢さんがストーヴをたいたり、何かと聊世話下さつた。いかにも親身な態度で、エスペラントで結ばれた先輩の皆さんの和やかな気持が、御家族の皆さんにまで現われていて何ともうれしいことだった。唯、この玄い部屋と御親切に対して、来る者は3人及至4人で、あまりにも勿体ないことがいつも心苦しかった。何とかいい方法はないかと考えて、一策を相沢さんだつたかに申出たが、結局そのまゝになつてしまった。今以つて浪越さんに申訳ないような気持が消えない。

前にもちよつと書いたが、この治療室に移つてからノ度だけ、遂に8時過ぎまで私ノ人で置したことがあつた。自習に飽きては、部屋を見歩いたが、いつもはるくに読んだこともない扁額や貼紙を見て歩いた。いろいろなものがあつた。ラデオの側には大相撲の星取表、外国風景の切抜き写真、スポーツ誌の附録らしい石版刷りの原寸と思われる厂状有名力士の巨大な手形が沢山ついたもの、タバコのニコチン含有率表とか、壁掛額の中には、墨絵で不気味なドクロを二つ並べ、余白には「どうせ我々は皆こうなる運命じゃないか、けんかなんかせず、仲よくやつてゆこう」という意味のドド、株の句を添えたものなど、賑やかに貼り並べてあつて一種特異な雰囲気を作り出してゐた。20厘近い広間にひとりポツンといると、独習もあまり身が入らず、ふと、この部屋では昨日も又明日も、体や心の苦しみから脱れるために多くの

人がこの畳の上で蜷めきもだえる姿を想像すると、急に背筋が寒々としてきた。

こうして「5の日会」は消えた。竜頭蛇尾というが、蛇頭蛇尾に並いかもしれない。私には重要な期間だったが、会としては盛会とも云へず、又、浪越さんには、正式には一度もお目にかからなかったことも何となくさびしいことだった。

(4) 平 務 室

—— 木 旺 会 ——

さて、こゝで舞台は廻つて木旺会となるのだがこれは現在はじめたばかり、どうなるかわからないし、5の日会とは違ったものになるらしいが、長くなつたから、次の戦会があつたらゆつくり書きたい。牛にひかれてはじめたエスペラントを、何度かの危機をこえてともかくこゝまで来た私だが、今以つて明確な目標も持たないまま、情熱は衰えていない。現在使っているテキストの「ガルロ」の他に、会話も、作文も続けられるだけは進みたいと思つている。御多忙の中を昨夏以来御指導下さつてゐる講師の皆様、場所を提供し御親切な御世話をいただいた先輩の方々、それによき勉強仲間たる後藤さんに心から感謝を申上げて、以上駄文縷々、ノ耳注の記とします。

1957. 2. 20.

La parola en deliro de Komencanto

J. M. Histario.

昨年北大での講習を受ける前回は、TABLO、と、LIBRO、の2つの単語しか知らなかった私だったが、此れは今から9年程前私が中学2年だった頃、国語の教科書の中に“世界を平和につなぐ者”という題だったと思いますが間違いかも知れないが此の中にザメンホフ博士の青年時代の事が書かれてあつた。で皆さんは“虎の巻”を使わなかったと思いますが私は此のアンチヨゴの偉大な力にぶら下つていた。中には此れにたより過ぎて先生に答を聞かれた時に彼はゆつくり立上つて“参考を見よ。”と云つて皆の笑いの種になつたり数学の問題など隣の問題の答を平気で黒板に書いて来た者も居ます。(此れは私かしたのでは無いから念の為) 話は横路にそれましたがその虎の巻の参考の処に上記の2つの単語が書いてあつたのです。英語もまだ覚え始めたばかりの時だったので大いに興味を持つて覚え今迄知り続けて来た2つ

の単語です。

その後2年ばかりたつて、北大の学生さんが遊びに来てシバシバと英白くなった筈に何だか解らないがエスペラントの単語を書き「これを覚えると世界中どこでも通じるんだからいいもんだな」等と話して居たのが私がエスペラントに出会つた2度目でした。それからエスペラントを思い出す用も無かつたが昭和28年春、今の会社に入つてから夏頃に此れを始め称と思付、札幌の本屋をさがしまわつたがエスペラントに関するノ冊の本も見出す事が出来ずフランス語に転向しフランス語の本を買つて帰つた。そして始めの方はまずスラスラ(と云う事にして下さい)と出来ましたが文法に入つて暗黙に乗り上げた。又前にもどつて進んで見たが同じ結果に成つてしまつた、誰ひとりとして教える人など無くそろそろいやに成つて来た所、昨年社の通路に貼つて有つたビラで北大でエスペラントの講習会がある事を見付け、親友に話した処(私の社は夜勤が1月の半分ある為)其の月全館を日勤にして頂き講習会に出席する事が出来、KOMENCANTO と相成つた訳です。教わっている中にエスペラントは他の自然語より随分やさしい(実際私の頭ではMALやさしかつたが)他の語に半分くらいも有る不規則なものが無い事や接頭辞、接尾辞による造語で他の自然語を覚えるより私の悪い頭を少く悩ました。

講習が終る数日前エエガキ数枚に"REVUE ORIENTA"から書き写した住所を書き投函して見た(勿論全部F-INOです、私は此れでもウラ若さヤロウですからね)数ヶ月後エエから返事を始めて頂いた時、私の喜びは絶頂に達したがよく読んで見るとF-INOはF-INOだが28オの、低低少女でした。その後ポーランドの女学生を始めとして数通頂きました。イギリスからののは簡単明瞭ですぐ訳す(と云つても少々時間がかかつたが)事が出来たが、西欧の少女はどうも不思議な字を書く(これは私自身が思つた事で本当は正しいんだそうです)のには全く困つた。其れに中に綴りでも間違つてでも居たら処置無しです。(私以外の人なら多分処置あると思います)そして正しいか正しくないかは知らないが此等の人達に返事を書く事が出来る称に成つたが、先生方もぎつと私には手を焼いた事だろうと自分ながら思つて居ます。

これからも皆さんと一緒に大いに勉強して死ぬ迄にはどうにかして1人前に成り度いと思つて居ますが、どう成る事やら先の事も解らない。ケ、セラ、セラ、...

昭和32年3月19日記、

R.O.による北海道工ス界

1929年

March 70 内報 函館 函館工ス会 初等講習は約2週間の講義を終えて、去る2月18日 終了式挙行、聴講生 13 人。

April 103 内報 札幌 札幌工ス会 2月26日午後6時より北大学生集会所に於て、総会を開き、委員の改選をなし、1929年度に於ける計画につき決案した。当日は田上会頭、高瀬、根本、山本、河野、箕輪、前田、花田、堀美、藤近、穴戸、後藤、本山氏等札幌に於ける工ス界の斗将大多数の出席を見、互に愉快に談会した。

苫小牧 学習半才の浅学の身で同志 25 名を指導しています。仲々骨が折れますが愉快です(苫小牧工業 渡部隆志氏より)。

112 J 三田智大氏 — 教科書「実習農産製造」の表紙には「prakri Kaj Teknikoj de la Faradoj el Terkul tulaj produktaĵoj VerkiTa de S-ro Mita Noritaka, Agronomia licenciato」とある。

June 165 内報 北海道大学 5月下旬、学習講習会を主催、講師田上教授

166 " 苫小牧工業 渡部隆志氏の尽力にて転員諸氏3名を得、最高学年生徒30名に講習をなす、会名を Tomako Verda Rondo と称し、近日中学校友会の1部となす由。尚当町にても氏と西村氏とが工ス会を起さんと奔走中。

167 " 札幌 札幌工ス会 3月19日午後6時半より北大学生集会所に於て、例会を開き、終りに interparolado の練習をなす。今後毎週1回例会を開き、Karlo 又は krestomatia の輪読をなし、interparlado の練習をなす予定。4月25日午後6時半より札幌北3、西3 白樺喫茶店に於て例会を催す、参会者 14 名、花田氏の持参せられた Espero Tagigo 及び学会発行の Disko を聞き、カルロの輪読をなし9時解散。事務所は前記白樺喫茶店主、内藤氏夫妻の理解ある奉仕的援助の下に、同店内に置くことゝ決定。定期例会は毎週火曜日午後7時より10時に決定。

168 J 札幌商業学校校友会誌 エスペラントについて 山本佐三氏

Aug. 229 内報 札幌 北大エスペラント会、3月20日より10日間、毎日13~13.5時北大学生集会所で講習会を主催。講師 田上教授。聴講者 60 名。講習中

俺の前後種々難務を引き受けられた箕輪、炭藤、前田の諸氏に感謝す。
講習後数回、毎火旺希望者のために河野氏指導の下に講習用書読み物の部
講評を継続せり。

札幌エスペラント会、花田稔学士は5月中旬北大秋田寮にて学生の
為エスペラント初等講座を行う。出席者20名。用書は学会講習用書。

7月2日より1週間毎夕19~21時 白樺喫茶店に於いて初等講習。講師
田上、高瀬、山本氏等。

★ 6月29日夜 札幌丸井記念館に於て札幌エス会主催、札幌音楽部後
援の「エスペラントと音楽の夕」なる宣伝講演会を開く。演者の盛会にて、
小樽の同志網注野、近藤氏も応援のため来札せられる。当夜はエスペラン
トの書籍、参考書、其の他の小展覧会を催し、宣伝ビラを配布し大いに気
勢をあげた。高瀬氏出品の外国の同志よりの絵葉書53点は特に人目をひ
いた。当日の主なる演題及び講演者は、口際語に因みて、田上氏(札幌)
エスペラントに就きて、近藤氏(小樽氏)、人類心 山本氏(札幌)
prego 田上氏、山本氏訳 Tagito 札幌音楽部、茲に札幌音楽部員
諸兄の御後援と、熱心なる在札幌同志の熱誠に多謝す。

229 F Esp. Grupo en la teknika lernejo en Tomakomari,
Hokkaido

230 内報 函館 丁史の進展に伴い、必然に生るべきエス会が、函館に於ても亦、
その力強い生声をあげた。名称 Hakodate Esperantista Ligo
(函館エスペランティスト連盟) 大衆の口際の進歩を感ならしめるために、
其のエス語化を目的とする。6/1日か1回協議会を連盟事務所に於て開催
集合者14名。委員戸田秀夫、林一郎、飯田耕夫、伊部久根人の4名。
尚加藤 Eisto の大部分は SAT 支持者である。事務所 函館市旭川238
能戸義雄方。Man da kunveno 毎7時より 於事務所。

★ 7月20日夜長崎の浅田博士、中津の石丸鎮雄氏等来函され翌21日
は市内及大沼を見学し17時より当エス会主催の歓迎会を五島野で開催
10時散会

230 F post la kurso en Obihiro, Hokkaido 甲村講師 堀田司会者

230 内報 帯広 帯広町で7月5日より13日まで毎日19~20.5時帯広小学校で
初等エス会開催。講師山部の中村久雄氏。64名参加。(写真参照)之を
機会に帯広エスペラント会を設立。蔵学校教諭三田智大氏の指導の下に
毎週1回火旺小学校にて研究会開催。集会者30名。司会者堀田氏。
来る8月24~31日か2回講習開催。

内報 苫小牧 工業学校 才/学期の講習を終えたので夏の寮へ入って記念撮影をした(写真参照)

Sept. 164 F Bonveniga Kunveno por prof. Asada Kaj S-ro.
Simara en Hakodate.

Oct. 193 内報 札幌 エスペラント会では今回美麗なるマンチペーパーを作成し盛に宣伝して利用することとした。希望者は河野広道へ。

函館 エスペラント会(函館エスペラント連盟とは別個のもの)にては8月3日夜函館市教育会主催の下に公会堂にて長崎医大の同志浅田一博士の「科学的犯罪捜査法」「緑の旅」なる講演あり。才2部に先立ち、当地の同志吉田栄氏は井上通則氏の通訳にてエス語演説をなし、会場入口にてはエス語趣意書、宣伝ビラを配布し、会衆に多大の感動を与えた。

8月12日より26日まで函館日々新聞社講堂にて才23回講習会を開く。講師 井上元則氏。講習生17名。8月21日終了式を挙行。栗石の青森県エスペラント連盟に出席せし佐藤、吉田氏の報告あり(写真参考)火旺会話会は復活、河邑、井上氏宅にて木旺、一般研究会は日々社にて直理氏指導す。(小田島氏報)

294 F Post Esp. Kurso en Hakodate

326 内報 函館 官エスペラント会員の函館盲啞院教諭光岡野一氏は岐阜訓盲院へ転任されるので、9月1日夜末云町ライオンにて有志が送別会を開いた。

9月6日 函館エス会の先輩桐野与太郎氏岩手県大船戸へ転任の途中本会を訪ねられ、夜虎渡眼科病院にて歓迎会。出席小森会長、高桑頼内、百理、玄部、北海、吉田、能登、小田島の諸氏。会員で結婚された井上元則、井上和久、山口重雄氏並に東京へ赴れし釧田鈴二氏へ記念品エス書籍を贈呈した。(小田島氏報)

328 内報 苫小牧 苫小牧エスペラント会の創立。苫小牧工業学校に於いては、此の程エスペラント展覧会を盛大に開催したが、その結果14名の同志を新に加へ、予定の如く苫小牧エスペラント会を創設し、毎週金曜19時より、引続き講習を行つている。同校生徒も加わつて、20~30名の集会が開催されている(渡部氏報)

327 " 函館 10月3日、函館日々新聞社樓上に於て、才2回エス雄辯会を兼ねて青森の佐藤氏の送別会を開く。同志13名出席。小森会長、井上、百理、吉田氏その他送別の辞及演説があつた。

Dec 361 内報 札幌 札幌鉄道局の部内では去る10月11日から23日まで札幌市内鉄道集合所に於いて、札幌エスペラント会の田上、花田、河野の諸氏を、

招聘して初等エス語講習会を開く。会が終わってから「札幌エスペラント会」
設立の相談会を開き、満場一致で賛成し、会長に札幌鉄道病院 外科医長の
平野子平氏を推挙して今後益々発展を期し、毎週木曜日夜刻から鉄道
集合所で研究会を開くことにした。(瀧丘氏報)

(4頁より)

このことについては S-ro 相沢治雄がはつきりいつているが、やはり私ど
のような初心者にも見のがせないように思う。つまり、大会と *La Ligo* との
関係 — 北海道エス大会は、北海道エス連盟の大会としたいという人もいる
とのこと。

しかし、現在の事情からしても、これは無理ではないか？ それがいいか
悪いかは別として、写真の中の 323 人の衆りが北海道の大会の状況では、
まだまだ *La Ligo* を北海道の大会にするのは無理な様な気がする。またこ
のようにすることを *Zantenhof* や彼の *Homaranismo* が *esperi* した
だろうか？ 私はギモンである。

これと関連して、*La Kongreso* の席で、「エスペラントは組織をあげ
て、つまり北海道エス連ならエス連盟そのものが、団体で世界連邦運動に加
入すべきであると主張しているような形になってしまった。」と S-ro 相沢
は述べている。これもどうしたことか？ これでは、北海道大会にギモンを
持たざるを得なくなる。

私は *Homaranismo* と世界政府主義との関係をはつきり知らないが、そ
れはともかく、北海道エス連はもつともつと *Esperanto* 語に理解ある人を
育てなければならぬ急務があると思っている。これは、ノ党ノ派では負えな
い大切な使命であると思っている。

私がエスペラントの文法や、その *Instituto* やそれに関係した機関を知り初
めてから、ノ年目がめぐろうとする。私の歩んで来た *progreso* や感想を少
々述べてみたが、何かウブな存在なので、今後ともよろしく先達のお力ぞえ
を願いたいものと思っている。

新 会 員

平 田 岩 雄	室蘭市東町日鋼社宅東隣 298
古 田 敬 三	札幌市大通り西 18 松谷方

地 方 会 便 り

小 樽

1956年度ザメンホフ祭は、12月15日夕より山賀眼科診療室に於いて開催した。参会者男女20名、牧師、中日友好協会小樽支部幹事長などもその中に加わって居たので、山賀博士からエス語の意義、由来を説明し、其の普及への御援助を要請した。

例会は、毎週水旺々る時より山賀眼科に開かれて今日に至って居り、入門者には "Esperanto por Infano" が、中級者には順次 "Karlo" "Kagujahime Kaj' Alia" "Turo por Fali" "Gauche La Calisto" 等が山賀博士によつて講じられて来た。青函中学生5名の入門は、明るい希望を与えている。其の1人、畑中紀君は、仏国同志の依頼で熊の板彫を送つてやつたところ、Karnaval の様子詳しく報せてもらえたので、喜んでいる。

山賀博士は、瑞典の Einar Adamson 未亡人の愛姪結婚後に於ける孤独と不如意がお氣の毒なので、早川の代筆によつてレヴュー・オリエンタ誌に、同志の同情を求める一文を送つた。又ポルトガル Montijo の同志の依頼で最近、講道館館長の柔道書をも送附した。なお、博士は、Budapest (Hungary) の不遇と戦災で命しい / 医大生 (女性) の死に病じて、婦人服を着せ贈り、なお広く同志に同情を求めて居る。博士の曾つて求められて葉を送つた、Bulgaria の縁内障手術を受けたという人からは、葉巻が1箱、博士へ贈られた。早川は、英国に在る米国商館に勤める婦人同志へ、その製田を売るといふ日本桐録会社の所番地を報じてやつた。又、汝見台中学教頭で写真に巧みな武田武司氏に勧め、仏国 Fecamp のエスベラントクラブ長へ、小樽の名所「五ヶ羅漢」の写真や、滝口岡菁以師の弾琴の写真を送つて頂いたが、是れらは展覧会に出された筈で、美麗な色絵葉書が多数、御礼として武田氏に届いた。又児童画を送つた汝見台小学校へも、同氏から同品が贈られる筈

小樽エスベラント協会現在の計画としては、① 50年大会のテープレコーダーと、16ミリ、フィルムを学会から借りて宣伝を用いること、② 本年度大会の節、世界児童画巡回展を当地で開催する事。(早 川)

鹿 角

S-ro 平田を中心に関研究会を続けていますが、寒さや雪に正比例してか冬期間は集合が感かつた、しかし春をむかえ暖くなつたら再び活発に研究を続けるつもりで、いま準備をすすめています。(カ モ)

札幌 昨年は日本エスペラント運動50周年記念行事委員会のプログラムに従って札幌ではもっぱら外部に向ってエスペラントの宣伝をし、また内部への反省に力をそそいだ。

今年は、外国からニッポンへ来る観光団が北海道まで足をのばしたとき、その中に加っているかも知れないエスペランチストの観迎に備えて、新旧 *gesamideango* の理解力を高めるための研究会を開くことになり、7月17日以来毎週木曜日(月4回)の18時から2時間大通東8丁目のヒラノ荷札幌事務所前で *gaŭda kunido* を続けている。そして月4回の会合のうちオ3回目は翌月の計画などを考えるための集合日として万障繰り合わせて出席することになっている。なおオ3回目は作文の練習を、その他は読解と会話の練習をすることになっている。このほか、今年は初等講習や展示会、宣伝講演会を実施する予定である (アリマ)

北大 学期試験や学期末休暇などによって自然、エス語研究会も休みになっているが、新学期をむかえ新に希望者をつのつて初等講習会を開き、これに呼応して研究会の方も再開すべく現在 S-yo 西里等によって準備中である。

藤女子短大 藤短大エスペラントクラブは熱心だった指導者 F-ino 永田に卒業された後は、英文科2年の F-ino 商橋、小西によって運営されることになった。同クラブは同好会の形でじみに研究を続けて行くが *gesamideango* による指導と援助を切に望んでいる。(アリマ)

「エスペラント」誌の和文エス訳応募者

昨年のエスペラント作文の応募者を校にしてみました。北海道からは全員が1割が名のりをあげております。量、質共に格段の札幌西里氏、室蘭 *germo* 殿、及び後半からあらわれて満点を続けられた *Mokkos* 氏に敬意を表します。(坂下)

氏名	地区	月別	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	回数
西里	札幌	札幌	9	7	7	7	8	9	8	9	9	9	10
ア一ヨ	札幌	札幌	8		8						9	9	4
<i>Germa</i>	※	室蘭	8	6	7	6	8	7	8	8	8	8	10
横山	小樽	小樽	8				8	7	8				4
<i>Ejokko</i>	札幌	札幌	6										1
<i>Mordo Melankolio</i>	小樽	小樽		6									1
<i>Nikso ploranta</i>	小樽	小樽			7								1
斎藤	北海道	北海道			7				8				2
スズキマサジ	小樽	小樽				7	8	8					3
<i>Kajemo</i>	北海道	北海道					8	7		9	9	9	5

氏 名	地区	月 別	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	回 数
Mokkos	北海道							8	10	10	10	10	5
Amano-Jaku	室 蘭								5				1
Moulo	札 幌										8		1
AKK *	札 幌										8	8	2
北海道の人員			5	3	5	3	5	6	6	4	7	6	
総応募の人員			50	38	54	33	55	55	56	54	77	62	

14名 (札幌 5, 小樽 4, 室蘭 2, 他 3)

* 印 は Fimo.

HEL 収 支 報 告

先 残	<u>6,706</u>	支 出	47 印 刷	4,000
収 入	会費31年度7人 1,400		送料及通信費	388
	32年度3人 600		振 替	40
小 計	<u>2,000</u>	小 計		<u>4,428</u>
		差 引 残		<u>4,278</u>

大会欠席参加費は2名入金しましたので、先残 147円に加へて 347円
次回大会への繰越金と相成ります。

あ と が き 31年度最後の LONTODO をお送り致します。毎度おな
し繰り言ですが、別掲の収支の通りの財政です。31年度会費は52名(内2名
は半年分)から頂きましたが、申込のありました人でまだ会費未納の方が、
15名程あります。#5~#6合算号にしたので現在の残金でこの#8の印刷代は支
払へますが、送料も不足なありさまです。何卒32年度の会費はお早めにお送
り下さい。尚毎度原稿で苦勞しております。皆様の機関誌ですからどしどし
欄投稿下さい。 坂下記

LONTODO

N-10 18 号

発 行

1957.4.20.

発 行 人

北海道エスペラント同盟

札幌市北1条東9丁目

坂下清一方

会 費

年額 200円 (HEL 会費)

(年4回発行配本)